

「医薬品副作用被害救済制度に関する認知度調査」
調査報告書
〈〈一般国民〉〉

平成24年3月13日



独立行政法人医薬品医療機器総合機構 健康被害救済部

目次

調査概要	P3
対象者のプロフィール	P4
Summary	P6
調査結果	
1 過去1年間 医療機関にかかった経験	P13
2 過去1年間 入院・通院経験	P14
3 過去1年間 利用した医療機関の規模	P15
4 過去1年間 利用した病院種別	P16
5 過去1年間 医薬品使用経験	P17
6 過去1年間 医薬品入手経路	P18
7 医薬品副作用被害救済制度 認知率	P19
8 生物由来製品感染等被害救済制度 認知率	P20
9 医薬品副作用被害救済制度 内容認知	P21
10 医薬品副作用被害救済制度 認知経路	P23
11 医薬品副作用被害救済制度 教えてもらった人	P24
12 医薬品副作用被害救済制度 パンフレット・ポスター接触場所	P25
13 広告の認知率	P26
14 広告の接触媒体	P27
15 広告の評価	P28
16 キャラクターの評価	P30
17 医薬品副作用被害救済制度 関心度	P32
18 医薬品副作用被害救済制度 情報収集の方法	P33
19 副作用の経験	P34
20 副作用で治療を受けた経験	P35
21 医薬品副作用被害救済制度を利用した経験	P36
22 医薬品副作用被害救済制度を利用しなかった理由	P37
23 医薬品副作用被害救済制度 今後の利用意向	P38
24 医薬品副作用被害救済制度 利用意向の理由	P39
25 医薬品副作用被害救済制度 有効な周知の方法	P40
付録:調査票	P42

調査概要

- ・ 調査目的 医薬品副作用被害救済制度の浸透度を把握し、今後の基礎資料とする
- ・ 調査対象 マクロミルモニタ 20歳以上の男女
- ・ 調査地域 全国
- ・ 調査方法 インターネット調査
- ・ 調査時期 平成23年度調査：平成23年11月24日(木)～11月25日(金)
平成22年度調査：平成22年7月29日(木)～8月5日(木)
- ・ 有効回答数 3,090サンプル

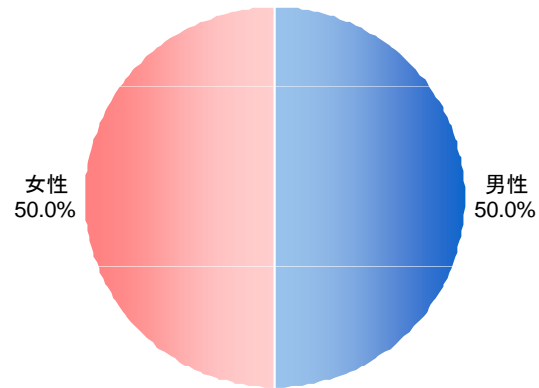
		平成23年度	平成22年度
1	男性/20-29才	309	983
2	男性/30-39才	309	2570
3	男性/40-49才	309	3178
4	男性/50-59才	309	2227
5	男性/60才以上	309	1408
6	女性/20-29才	309	1904
7	女性/30-39才	309	3984
8	女性/40-49才	309	2859
9	女性/50-59才	309	1349
10	女性/60才以上	309	538
全体		3090	21000

(人)

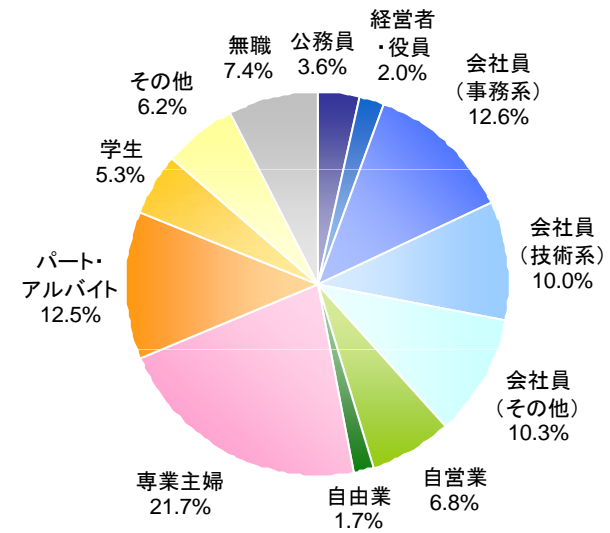
- ・ 調査実施機関 株式会社マクロミル

対象者のプロフィール (n=3,090)

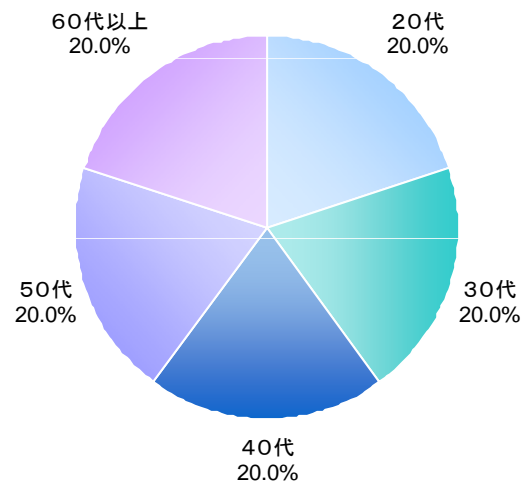
【性別】



【職業】



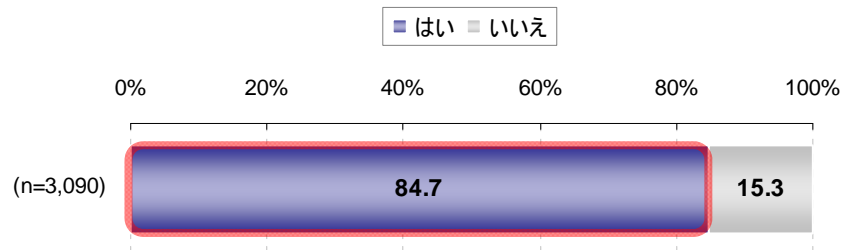
【年代】



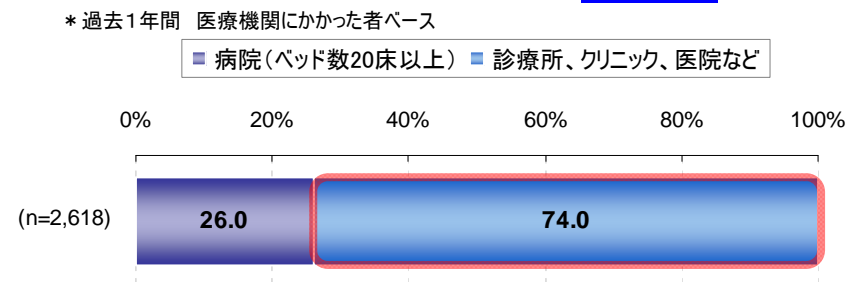
Summary

Summary

【過去1年間 医療機関にかかった経験】 単一回答

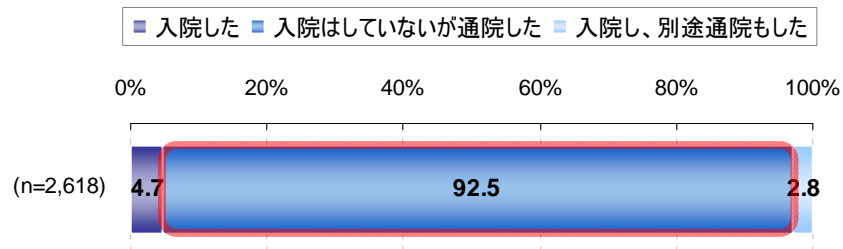


【過去1年間 利用した医療機関の規模】 単一回答



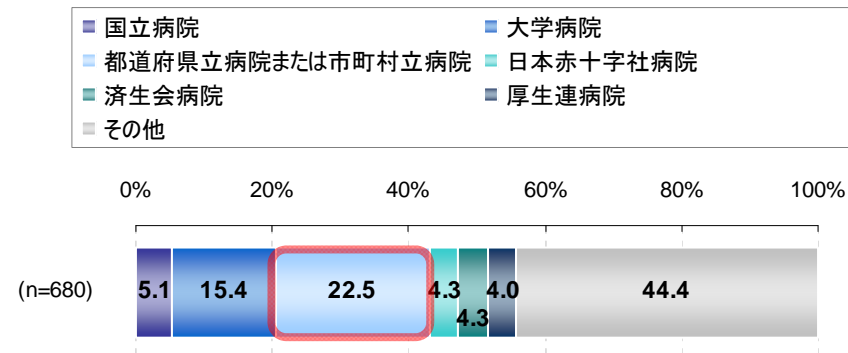
【過去1年間 入院・通院経験】 単一回答

* 過去1年間 医療機関にかかった者ベース



【過去1年間 利用した病院種別】 単一回答

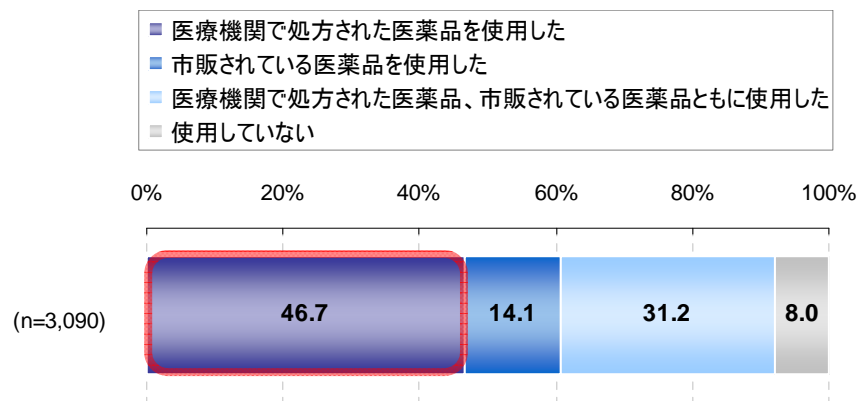
* 過去1年間 病院利用者ベース



✓過去1年間の医療機関の利用状況は上記の通り。

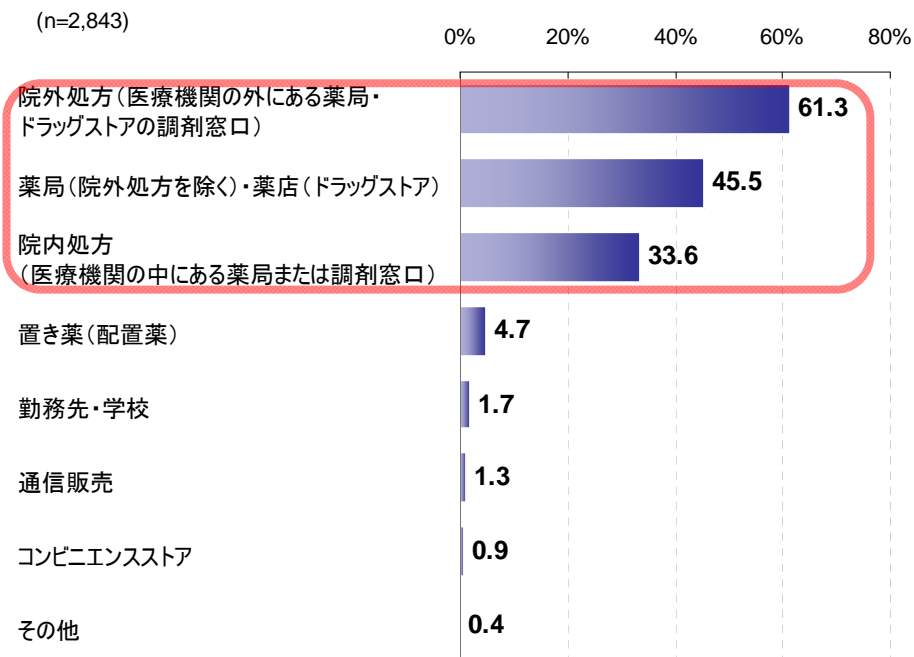
Summary

【過去1年間 医薬品使用経験】 単一回答



【過去1年間 医薬品入手経路】 複数回答

* 医薬品(薬)使用者ベース



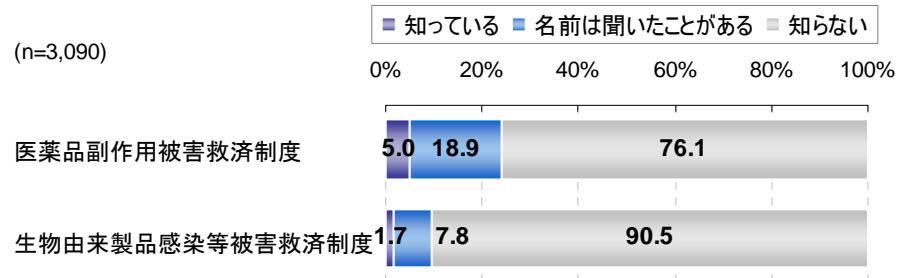
✓ 医薬品の使用経験は、「医療機関で処方された医薬品」のみが47%を占めた。次いで、「医療機関で処方された医薬品、市販されている医薬品」両方が31%。

✓ 医薬品の主な入手先は「院外処方」61%、「薬局」46%、「院内処方」34%。

Summary

【健康被害救済制度 認知率】

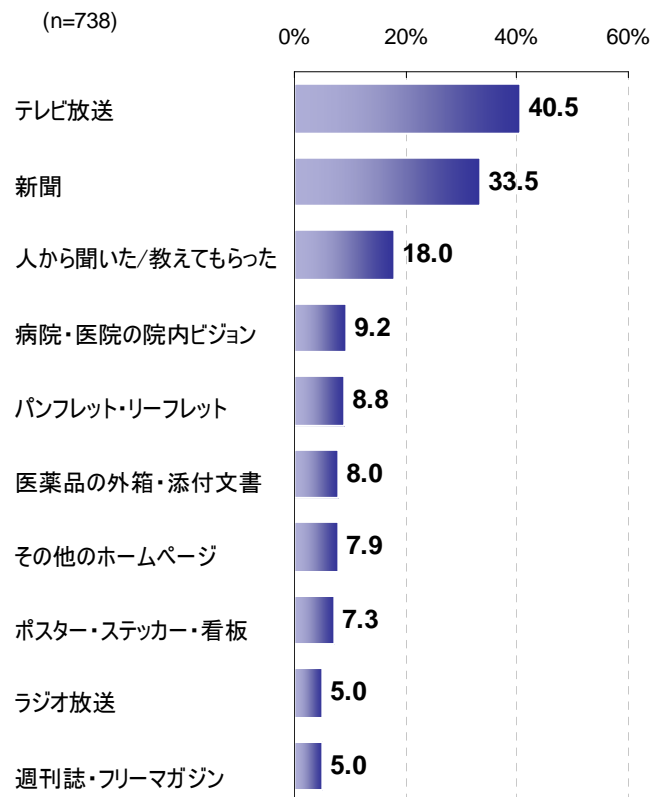
単一回答



【健康被害救済制度 認知経路(上位10項目)】

複数回答

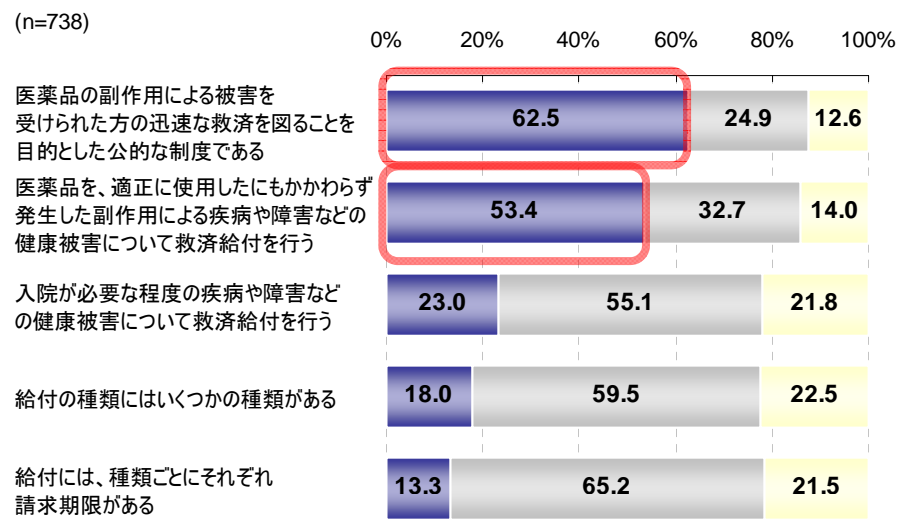
* 医薬品副作用被害救済制度認知者ベース



【健康被害救済制度 内容認知】

単一回答

* 医薬品副作用被害救済制度認知者ベース



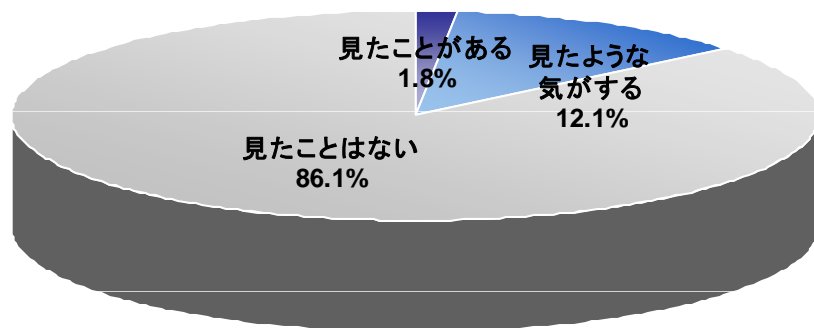
- ✓ 医薬品副作用被害救済制度の認知率(知っている+名前は聞いたことがある)は24%。
- ✓ 生物由来製品感染等被害救済制度の認知率は10%。
- ✓ 医薬品副作用被害救済制度認知者の認知内容を見ると、「医薬品の副作用による被害を受けられた方の迅速な救済を図ることを目的とした公的な制度である」、「医薬品を、適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う」の2項目が突出。
- ✓ 医薬品副作用被害救済制度の認知経路は、「テレビ放送」41%、「新聞」34%で、上位二つをマスメディアが占める。次いで「人から聞いた/教えてもらった」が18%と、口コミによる認知も比較的高い。

Summary

【広告 認知率】 単一回答



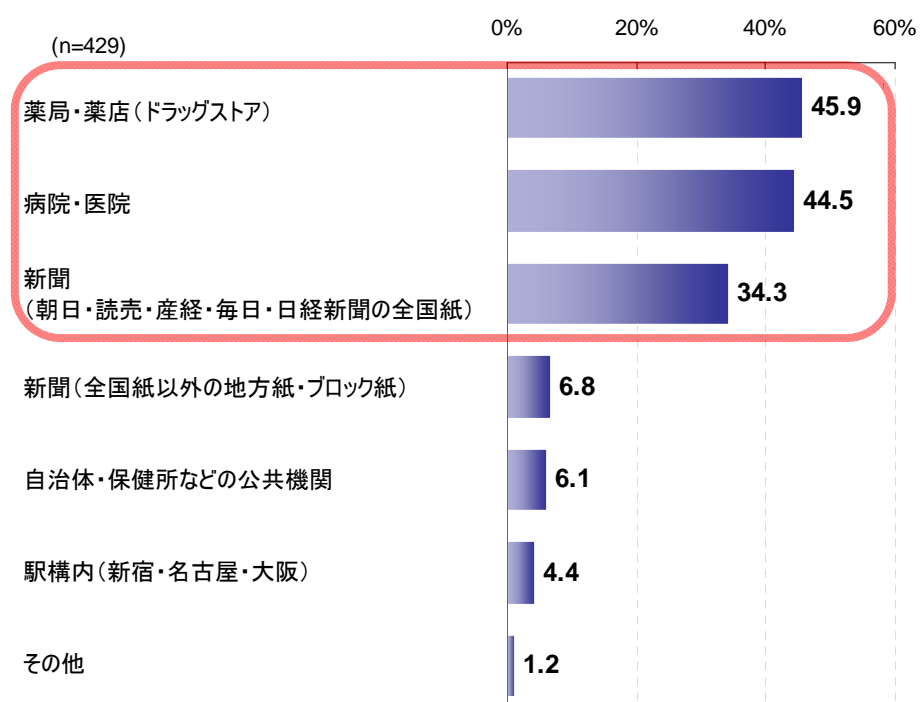
(n=3,090)



見た計 13.9%

【広告 接触媒体】 複数回答

* 広告認知者ベース

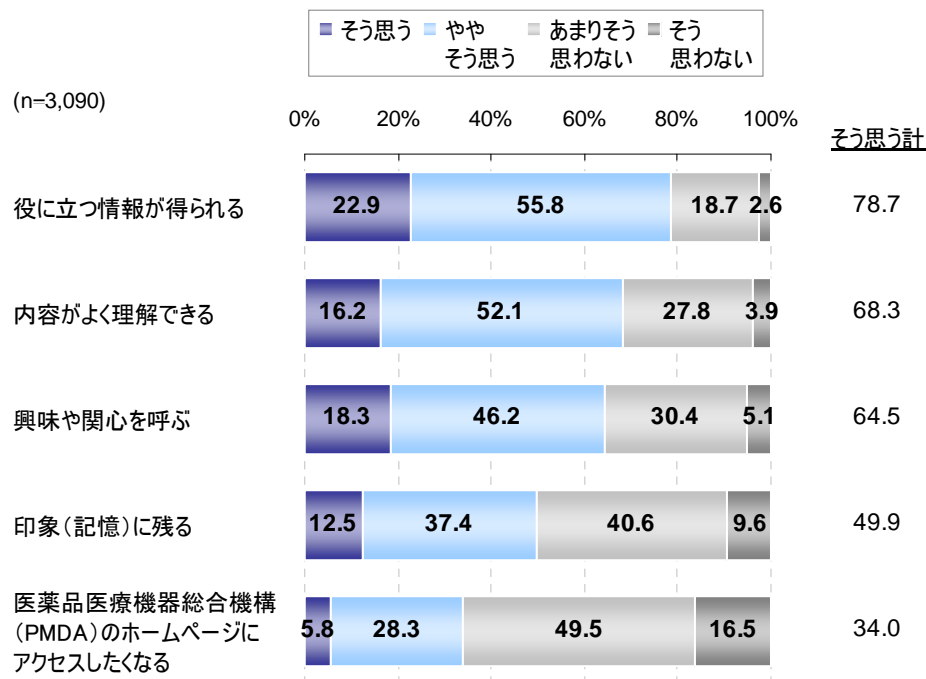


✓ 広告の認知率(見たことがある + 見たような気がする)は14%。

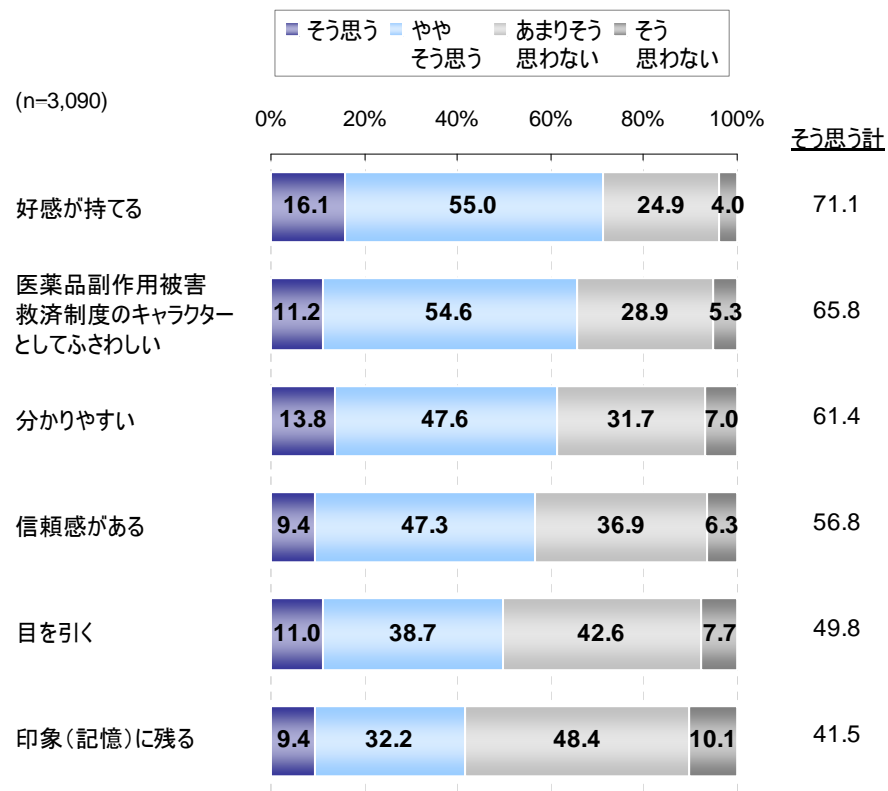
✓ 広告認知者の主な接触媒体は「薬局・薬店」46%、「病院・医院」45%、「新聞(全国紙)」34%。

Summary

【広告の評価】 単一回答



【キャラクターの評価】 単一回答



✓広告の評価(そう思う+ややそう思う)で最も高かった項目は、『役に立つ情報が得られる』79%。以下、『内容がよく理解できる』68%、『興味や関心を呼ぶ』65%の順。

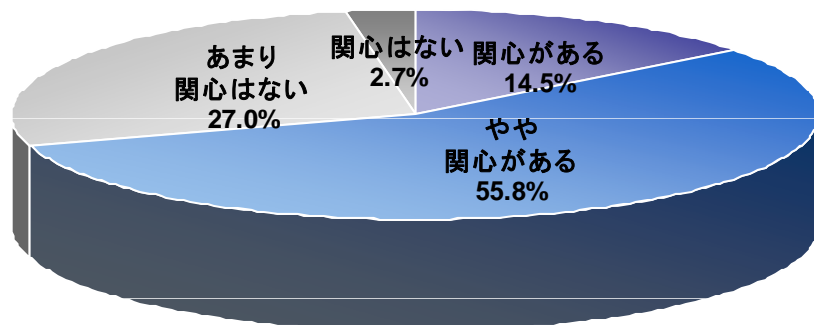
✓キャラクターの評価(そう思う+ややそう思う)で最も高かった項目は、『好感が持てる』71%。以下、『医薬品副作用被害救済制度のキャラクターとしてふさわしい』66%、『分かりやすい』61%の順。

Summary

【医薬品副作用被害救済制度 関心度】

単一回答

(n=3,090)

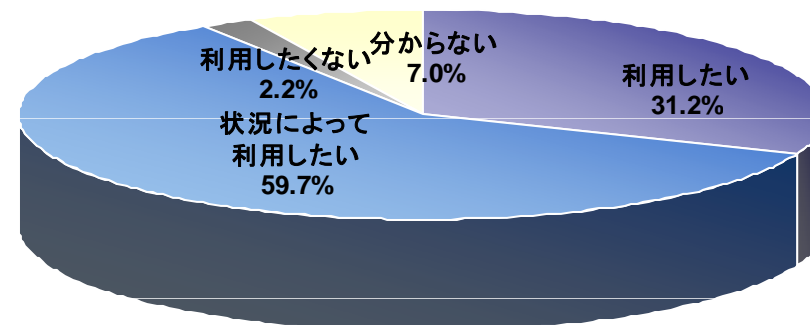


関心がある計 70.3%

【医薬品副作用被害救済制度 今後の利用意向】

単一回答

(n=3,090)



利用したい計 90.8%

✓医薬品副作用被害救済制度への関心度(関心がある+やや関心がある)は70%。

✓医薬品副作用被害救済制度の今後の利用意向(利用したい+状況によって利用したい)は91%。

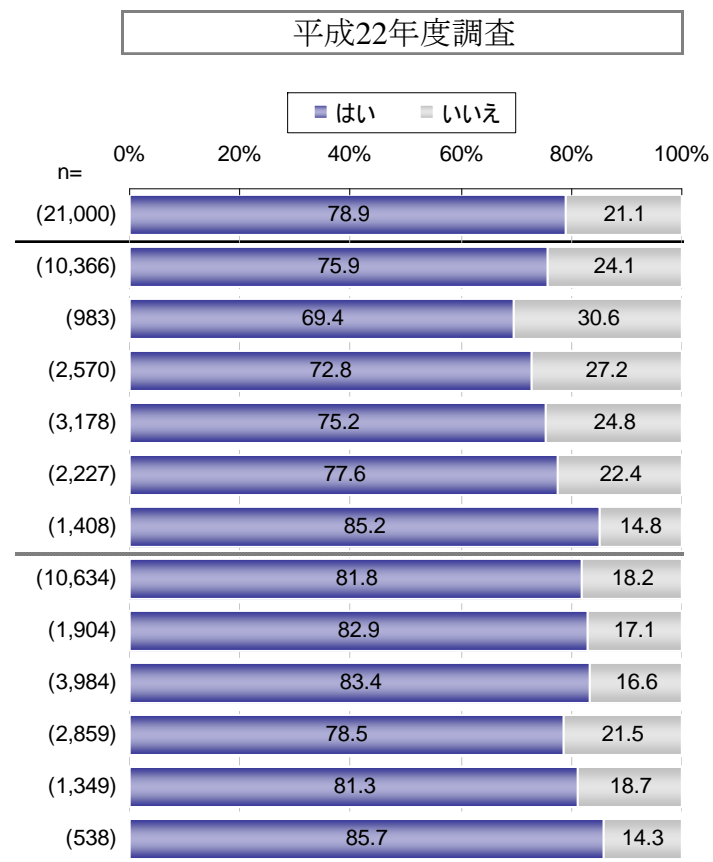
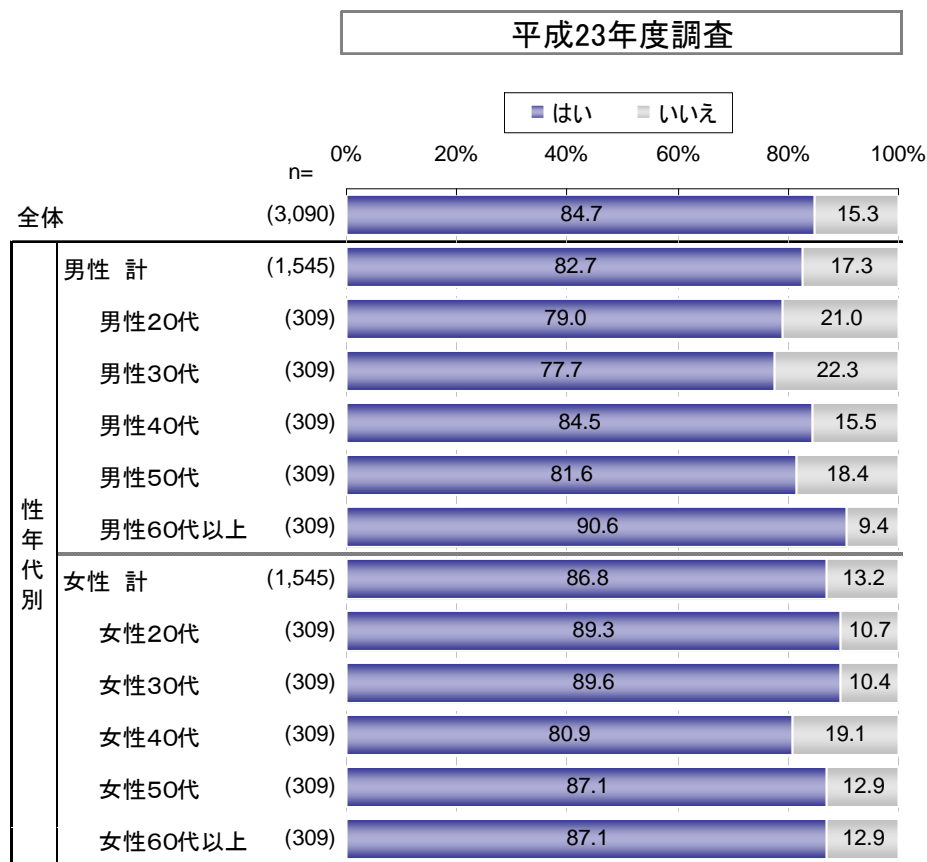
調査結果

1 過去1年間 医療機関にかかった経験

単一回答

平成23年度 Q1 あなたは、過去1年以内に医療機関にかかりましたか。

平成22年度 Q1 あなたは、過去1年以内に医療機関にかかりましたか。



- 過去1年間に医療機関を利用したとの回答は85%。昨年度より上回っている。
- 【性年代別】
- 『女性』の方が利用率が高め。
- 『男性』は高年齢層ほど利用率が高まる傾向。『女性』は『女性40代』を除き概ね同率となっている。

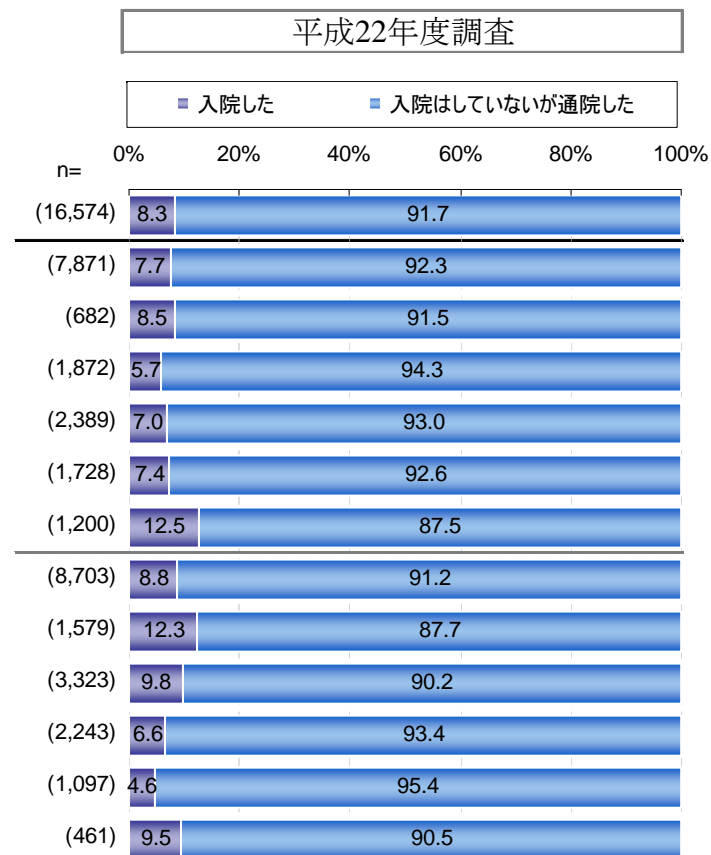
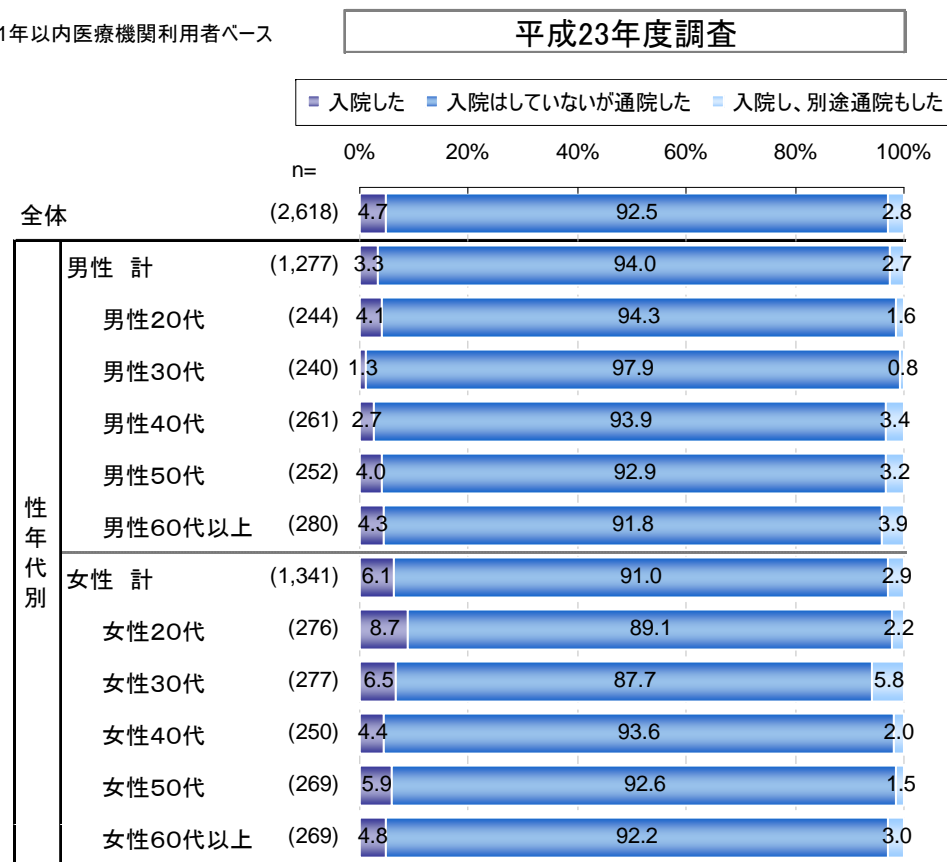
2 過去1年間 入院・通院経験

単一回答

平成23年度 Q2 あなたは、過去1年以内に医療機関をどのように利用(入院・通院)しましたか。

平成22年度 Q2 あなたは、過去1年以内に医療機関をどのように利用(入院・通院)しましたか。

* 過去1年以内医療機関利用者ベース



※平成22年度調査では「入院し、別途通院もした」の選択肢は非聴取

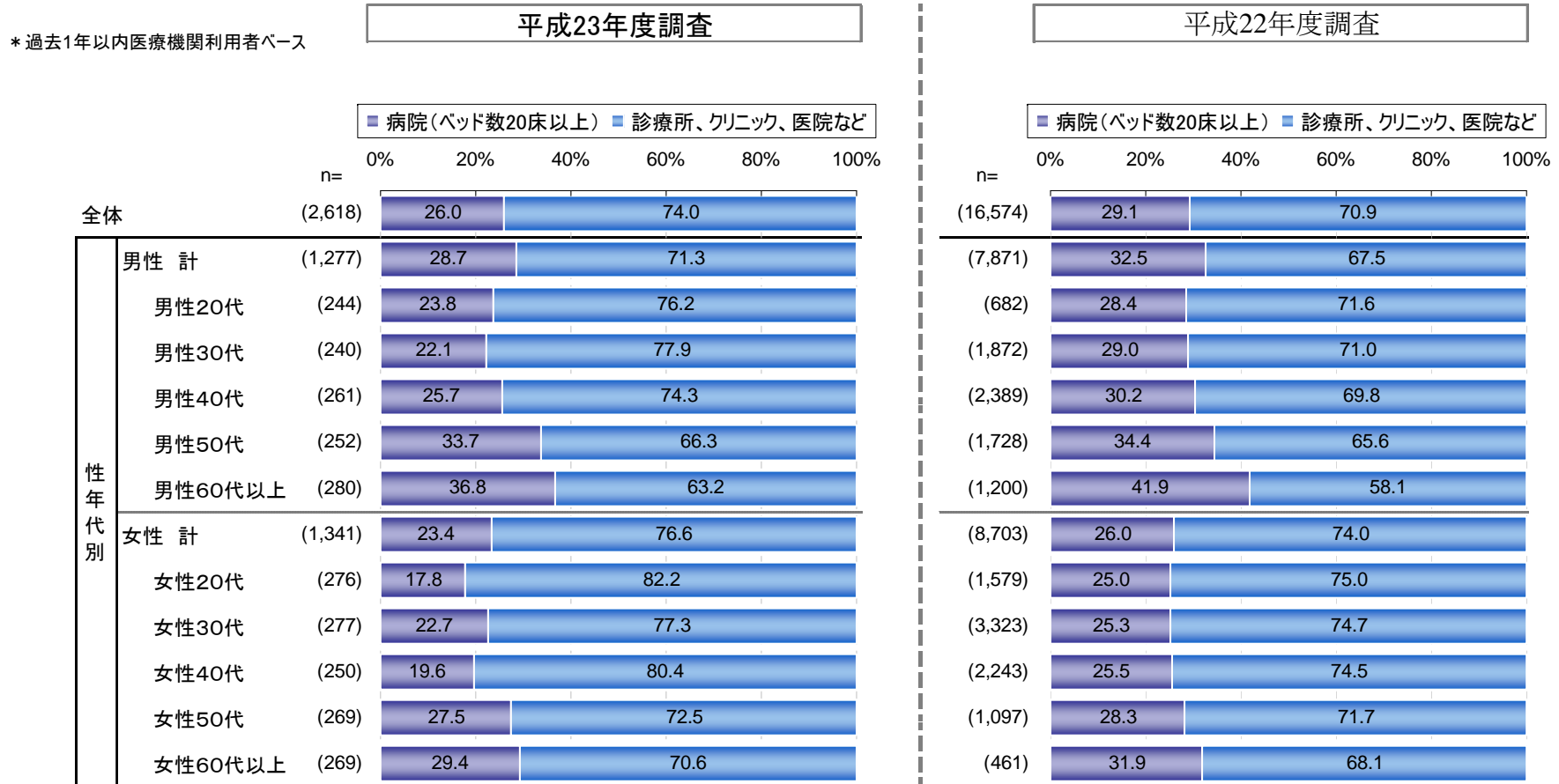
- 過去1年間の医療機関利用者の内訳として「通院」のみが9割以上を占めた。「入院」のみは5%、「入院し、別途通院もした」は3%。
- 【性年代別】
- 『男性』の方が「通院」のみが高め。
- 『女性20代』で「入院」のみが1割弱とやや高い。

3 過去1年間 利用した医療機関の規模

単一回答

平成23年度 Q3 あなたは、過去1年以内にどのような規模の医療機関をもっとも多く利用(回数)しましたか。

平成22年度 Q3 あなたは、過去1年以内にどのような規模の医療機関をもっとも多く利用しましたか。医療機関をもっとも多く利用とは、利用頻度をもっとも多いことを指します。



- 利用した医療機関の規模は、「診療所・クリニック・医院など」が74%、「病院」は26%となっている。
 - 昨年度に比べ、「病院」の割合がやや下回っている。
- 【性年代別】
- 男女いずれも高年齢層で「病院」の占める割合が高まる傾向。

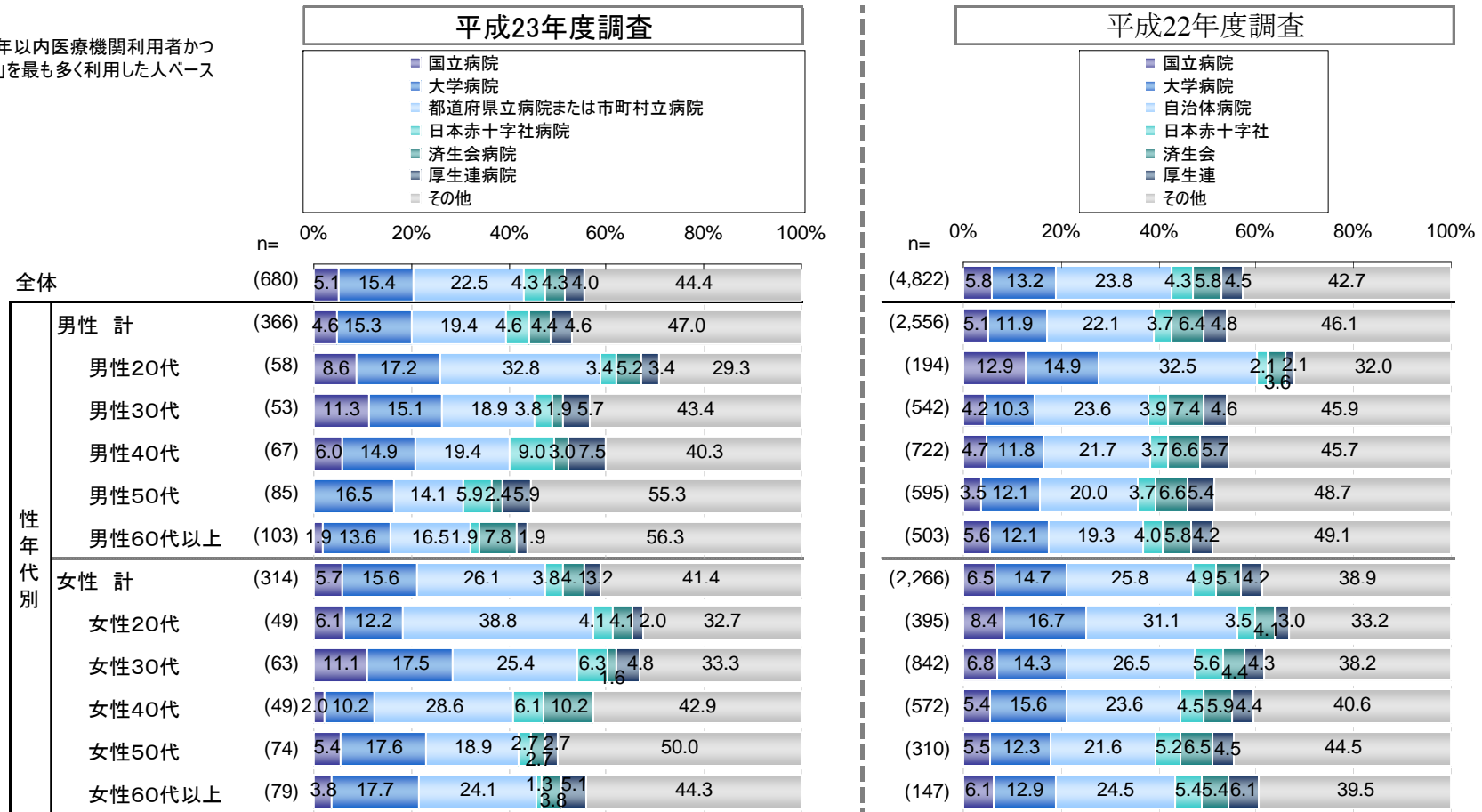
4 過去1年間 利用した病院種別

単一回答

平成23年度 Q4 あなたが、過去1年以内に利用された病院はどこですか。もっとも多く利用されたところをひとつお選びください。

平成22年度 Q4 あなたが、過去1年以内にもっとも多く利用された病院はどこですか。

* 過去1年以内医療機関利用者かつ「病院」を最も多く利用した人ベース



- 利用した病院の内訳は「都道府県立病院または市町村病院」23%が最も高く、次いで、「大学病院」15%となっている。「その他」は4割強。
- 昨年度との差はあまりみられない。

【性年代別】

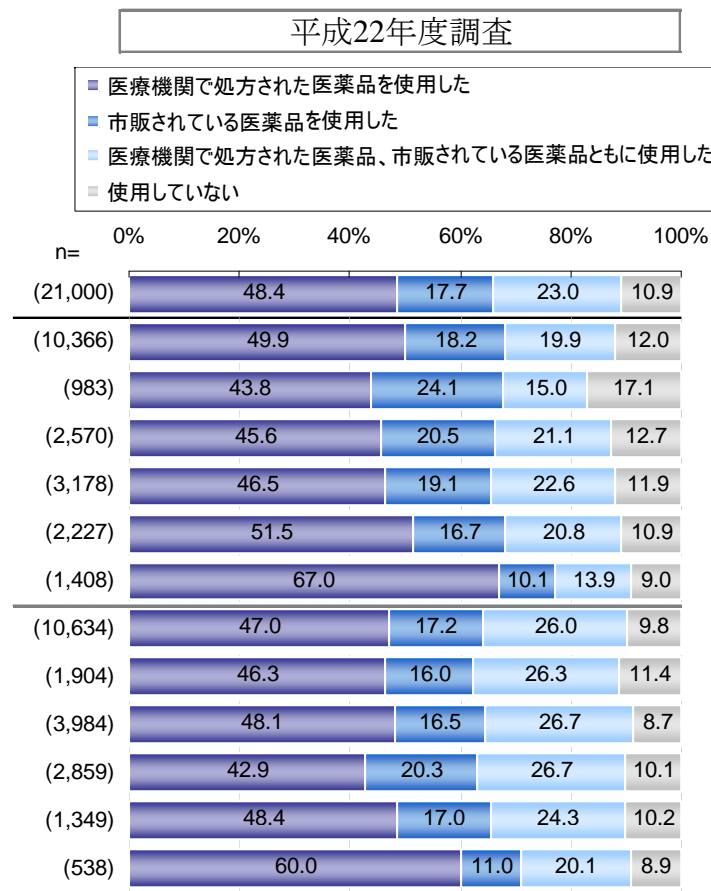
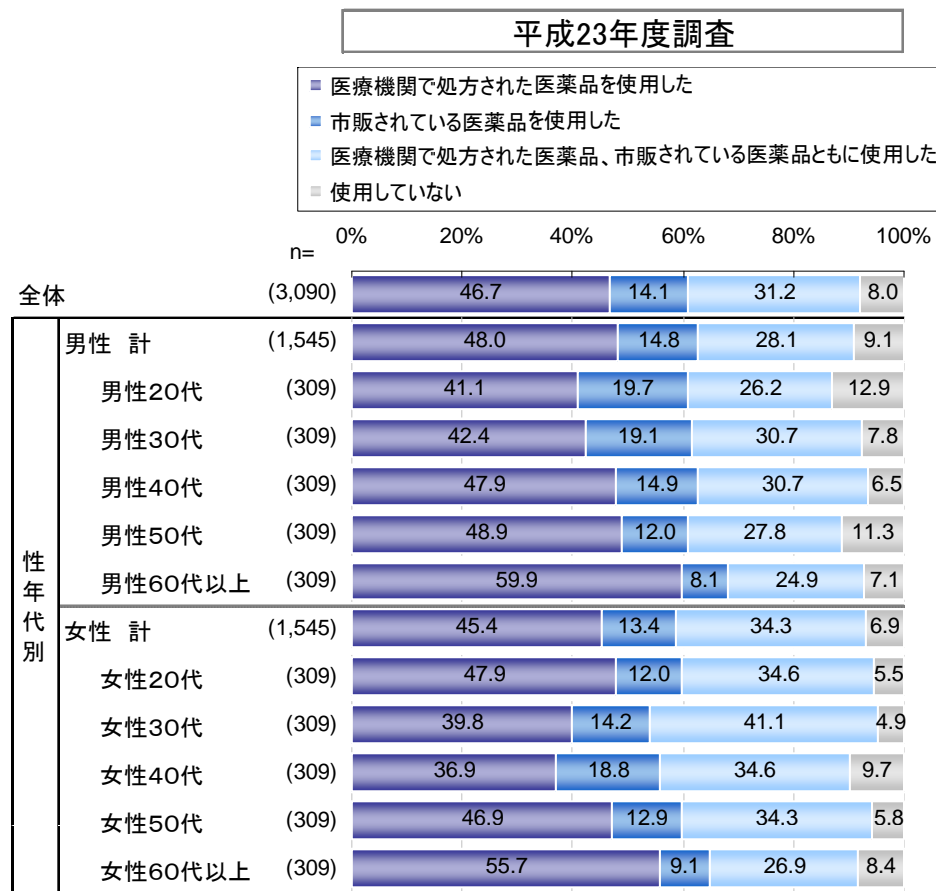
- 「都道府県立病院または市町村病院」は男女『20代』で高め。

5 過去1年間 医薬品使用経験

単一回答

平成23年度 Q5 あなたは、過去1年以内に医薬品(薬)を使用しましたか。

平成22年度 Q5 あなたは、過去1年以内に医薬品(薬)を使用しましたか。



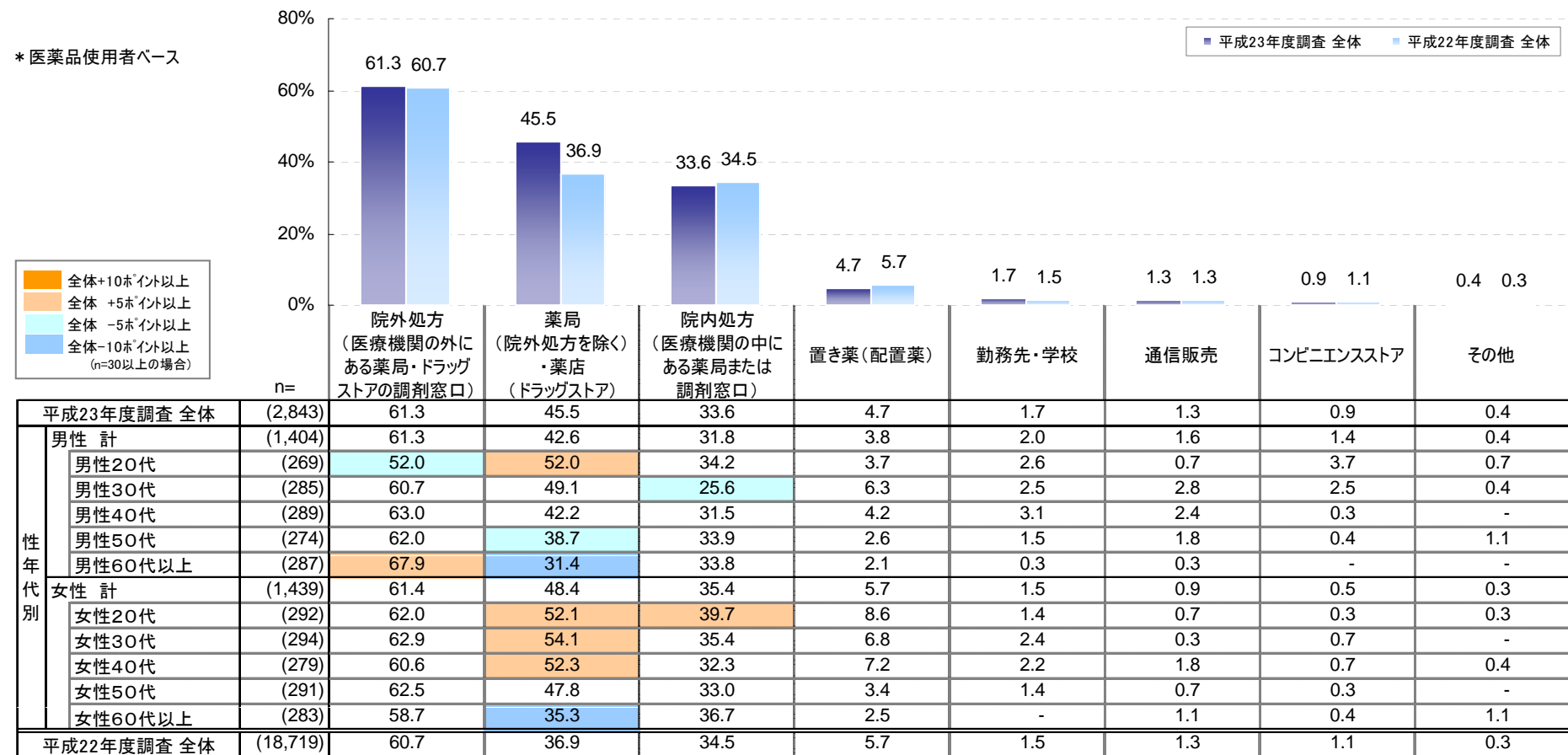
• 医薬品の使用経験は「医療機関で処方された医薬品」のみが47%を占めた。以下、「医療機関で処方された医薬品、市販されている医薬品」両方が3割強で次ぐ。昨年度よりも処方・市販の両方を使用した割合が上回っている。
【性年代別】
 • 高齢層は「医療機関で処方された医薬品」のみが高め。『女性30代』は「医療機関で処方された医薬品、市販されている医薬品」両方のスコアが「医療機関で処方された医薬品」のみを上回っている。

6 過去1年間 医薬品入手経路

複数回答

平成23年度 Q6 あなたは、その医薬品(薬)をどこで購入(入手)しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

平成22年度 Q6 あなたは、その医薬品をどこで購入(入手)しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。



※平成22年度調査では、「院外処方(医療機関の外にある薬局・薬店(ドラッグストア含む))」「薬局・薬店(院外処方を除く)」という選択肢で聴取
平成23年度調査全体値の降順にソート

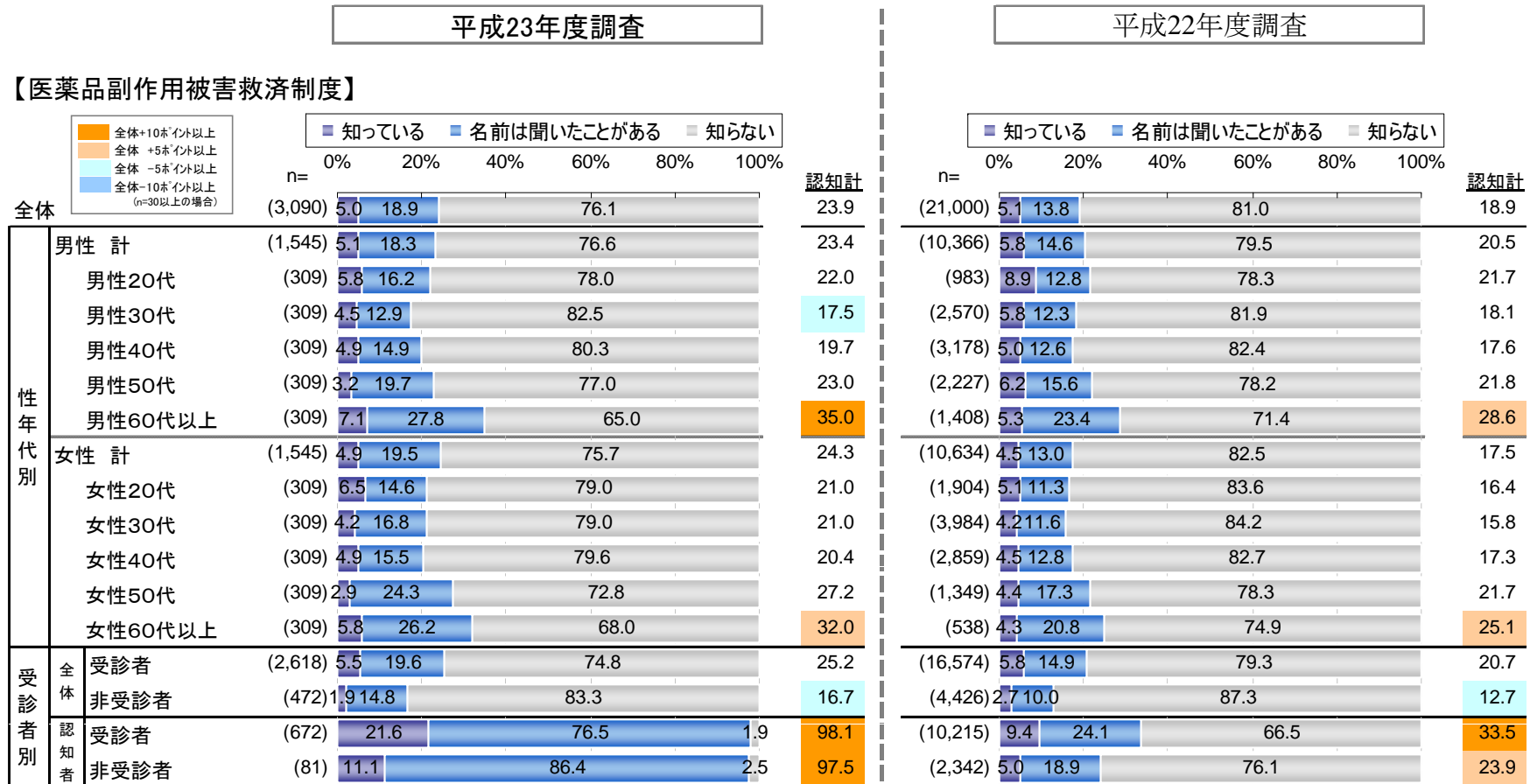
- 医薬品の入手先トップは「院外処方」61%。以下、「薬局」46%、「院内処方」34%が続く。
- 【性年代別】
- 若年層で「薬局」が高め。特に、『女性』で顕著となっている。

7 医薬品副作用被害救済制度 認知率

単一回答

平成23年度 Q7 あなたは下記に挙げた健康被害救済制度をご存知ですか。

平成22年度 Q7 あなたは、下記に挙げた健康被害救済制度をご存じですか。



• 医薬品副作用被害救済制度の認知率(知っている＋名前は聞いたことがある)は、24%。昨年度をやや上回る。
 【性年代別】
 • 男女『60代以上』の認知率が3割強と高め。

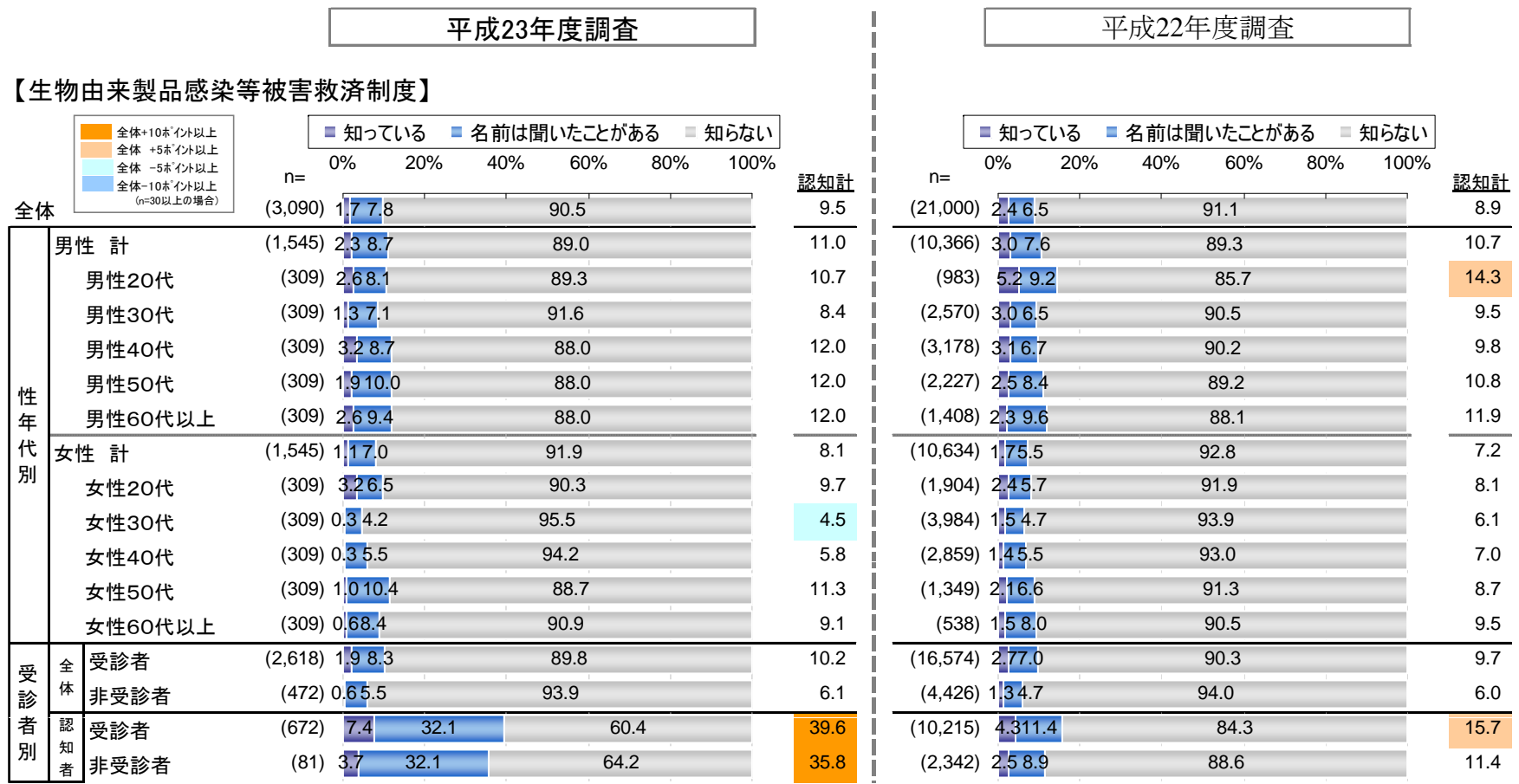
※受診者別(認知者ベース)の軸は、平成23年度調査と平成22年度調査で基準が異なるため参考値
 平成23年度調査:「医薬品副作用被害救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」のいずれか認知者ベース
 平成22年度調査:「医薬品副作用被害救済制度」「献血者健康被害救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」「石綿(アスベスト)健康被害救済制度」「予防接種健康被害救済制度」のいずれか認知者ベース

8 生物由来製品感染等被害救済制度 認知率

単一回答

平成23年度 Q7 あなたは下記に挙げた健康被害救済制度をご存知ですか。

平成22年度 Q7 あなたは、下記に挙げた健康被害救済制度をご存じですか。



•生物由来製品感染等被害救済制度の認知率(知っている＋名前は聞いたことがある)は、10%。昨年度に比べ微増している。
【性年代別】
 •『男性』の認知率はいずれの年代も『女性』を上回っている。

※受診者別(認知者ベース)の軸は、平成23年度調査と平成22年度調査で基準が異なるため参考値
 平成23年度調査:「医薬品副作用被害救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」のいずれか認知者ベース
 平成22年度調査:「医薬品副作用被害救済制度」「献血者健康被害救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」「石棉(アスベスト)健康被害救済制度」「予防接種健康被害救済制度」のいずれか認知者ベース

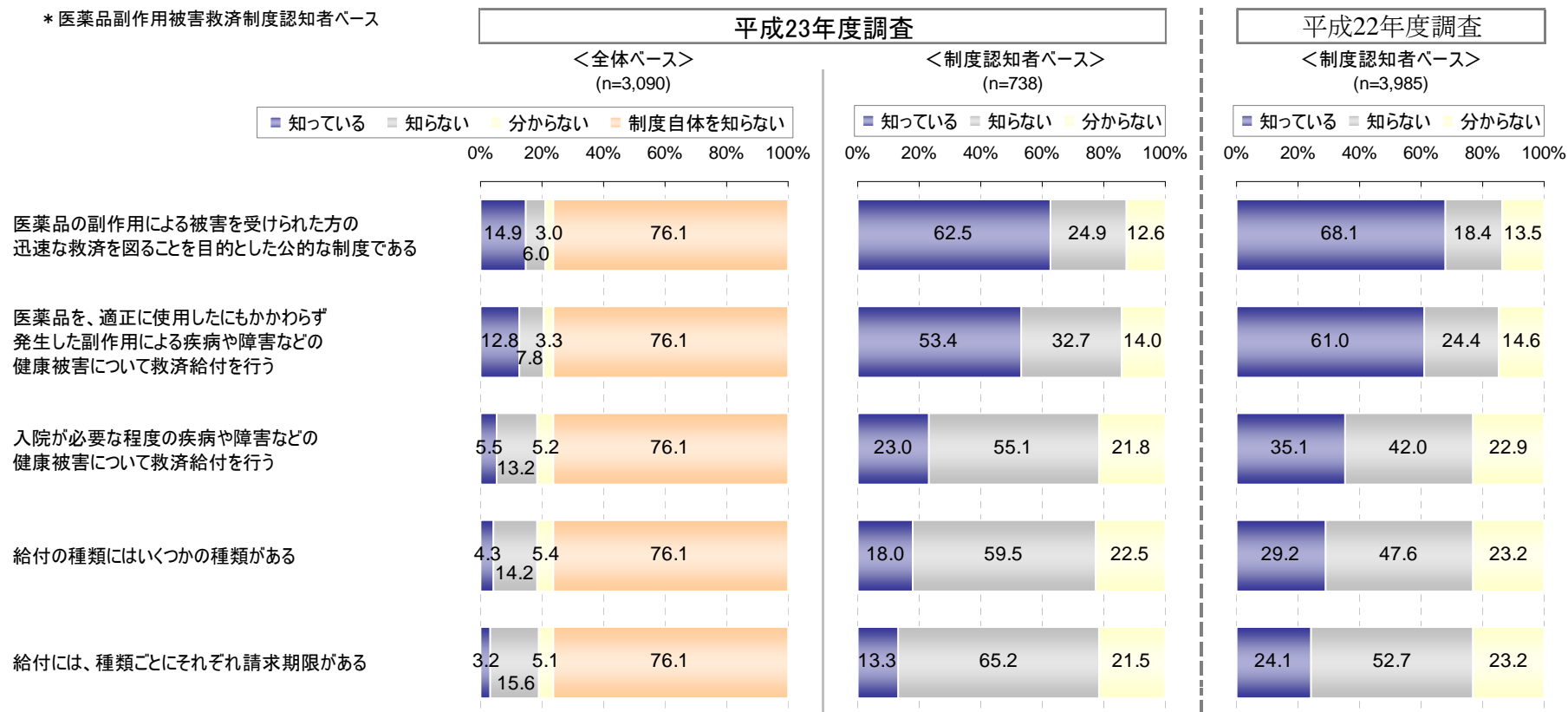
9 医薬品副作用被害救済制度 内容認知

単一回答

平成23年度 Q8「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。

平成22年度 Q8「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。

* 医薬品副作用被害救済制度認知者ベース



- 内容の認知は、「医薬品の副作用による被害を受けられた方の迅速な救済を図ることを目的とした公的な制度である」、「医薬品を、適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う」の2項目が半数を超え、突出している。
- 昨年度に比べ、各内容の認知率(知っている)が下回っている。

9 医薬品副作用被害救済制度 内容認知

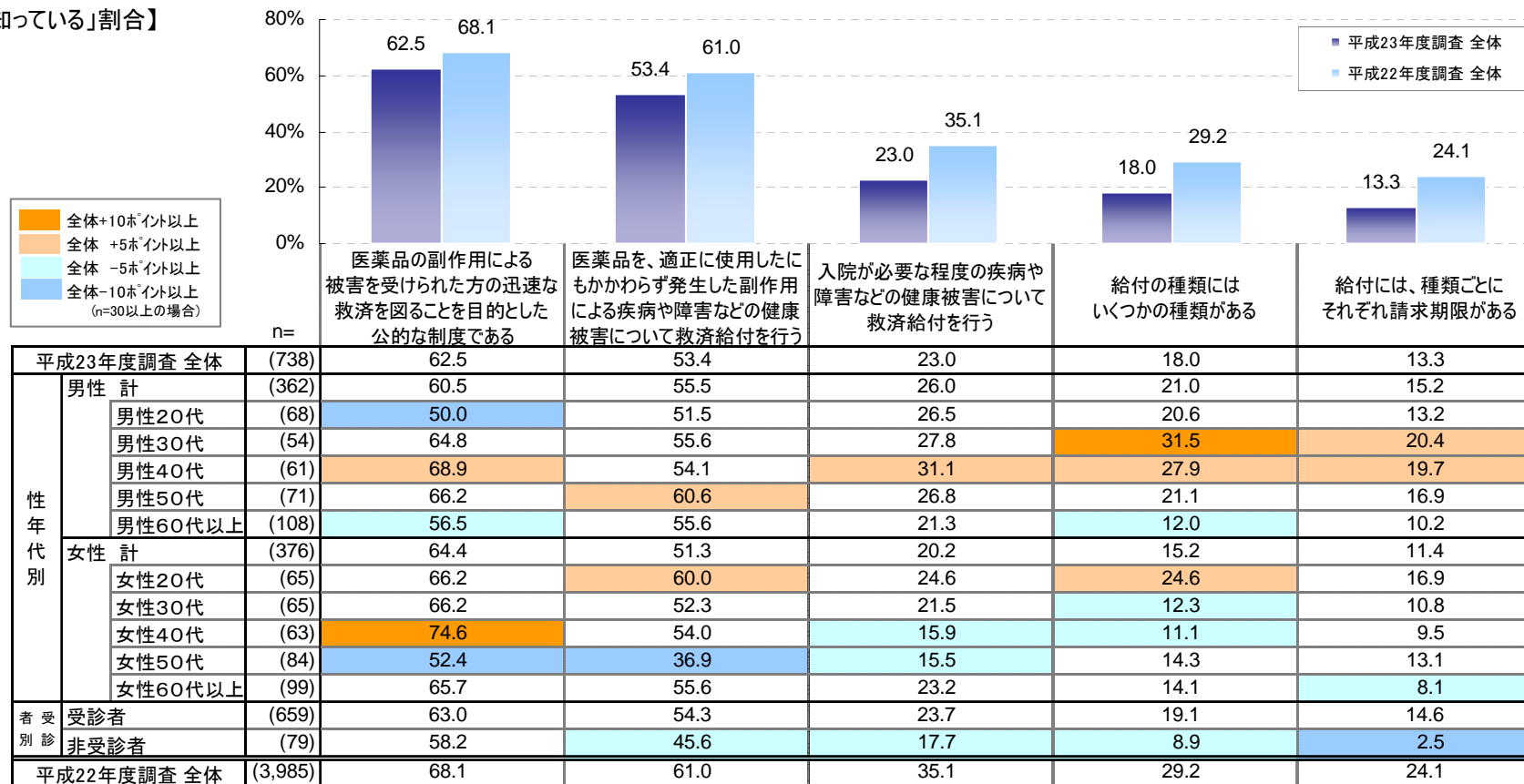
単一回答

平成23年度 Q8「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。

平成22年度 Q8「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。

* 医薬品副作用被害救済制度認知者ベース

【「知っている」割合】



【性年代別】

・『男性』の方が高めの傾向。特に『男性30代』、『男性40代』で顕著となっている。

【受診者別】

・『非受診者』が全体的に低い。

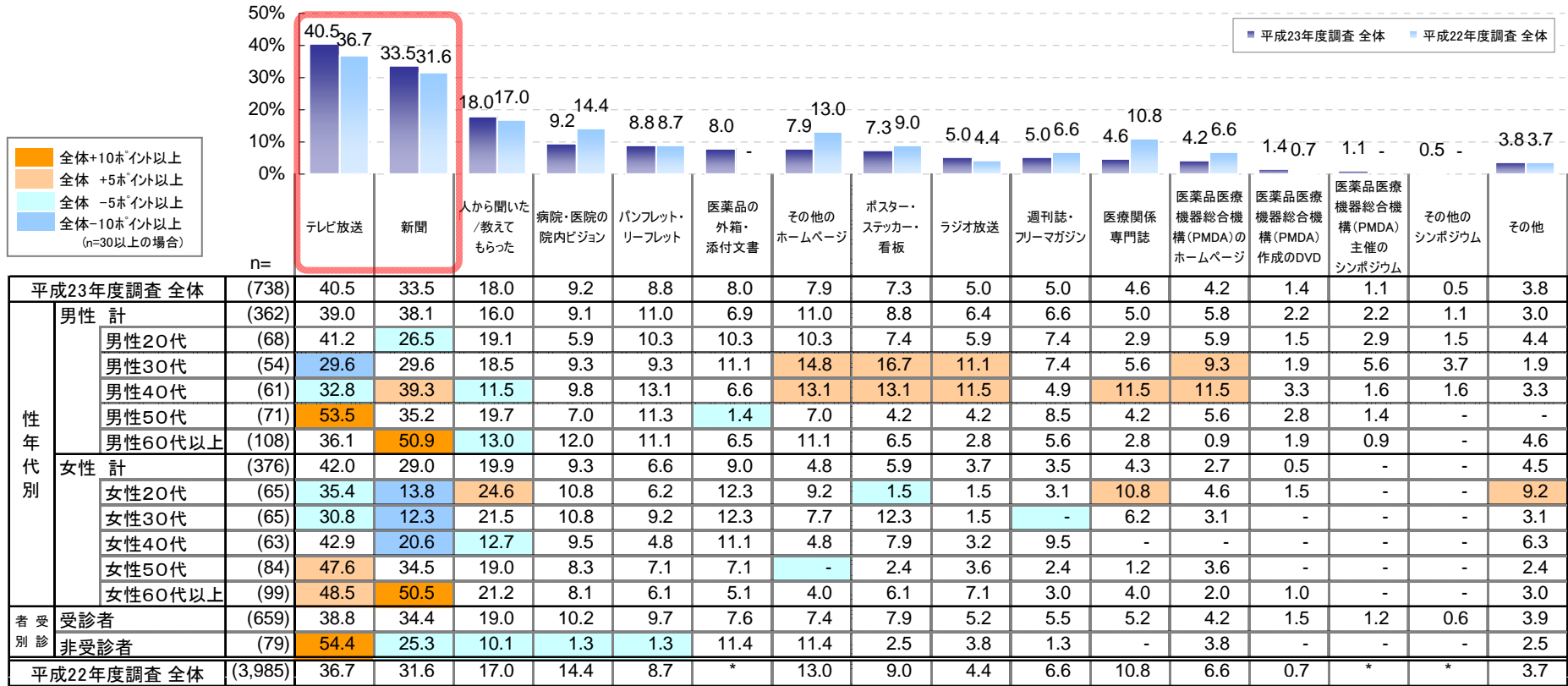
10 医薬品副作用被害救済制度 認知経路

複数回答

平成23年度 Q9 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」をどのようにして(何から)知りましたか。または、どのようにして(何から)名前を聞きましたか。

平成22年度 Q9 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」をどのようにして知りましたか。または、どのようにして名前を聞きましたか。

* 医薬品副作用被害救済制度認知者ベース



*:平成22年度非聴取項目 平成23年度調査全体値の降順にソート

• 主な認知経路は、「テレビ放送」41%、「新聞」34%。以下、「人から聞いた／教えてもらった」18%が続く。いずれも昨年度よりやや上回っている。一方、「病院・医院の院内ビジョン」「その他のホームページ」「医療関係専門誌」は昨年度に比べ下回っている。

【性年代別】

• 『男性30代』、『男性40代』は、1割を超える項目が多く、他の年代と比べ認知経路が多岐に渡る。

【受診者別】

• 『非受診者』は「テレビ放送」が5割以上を占めるが、「新聞」「人から聞いた」「院内ビジョン」「パンフレット・リーフレット」においては全体を下回る。

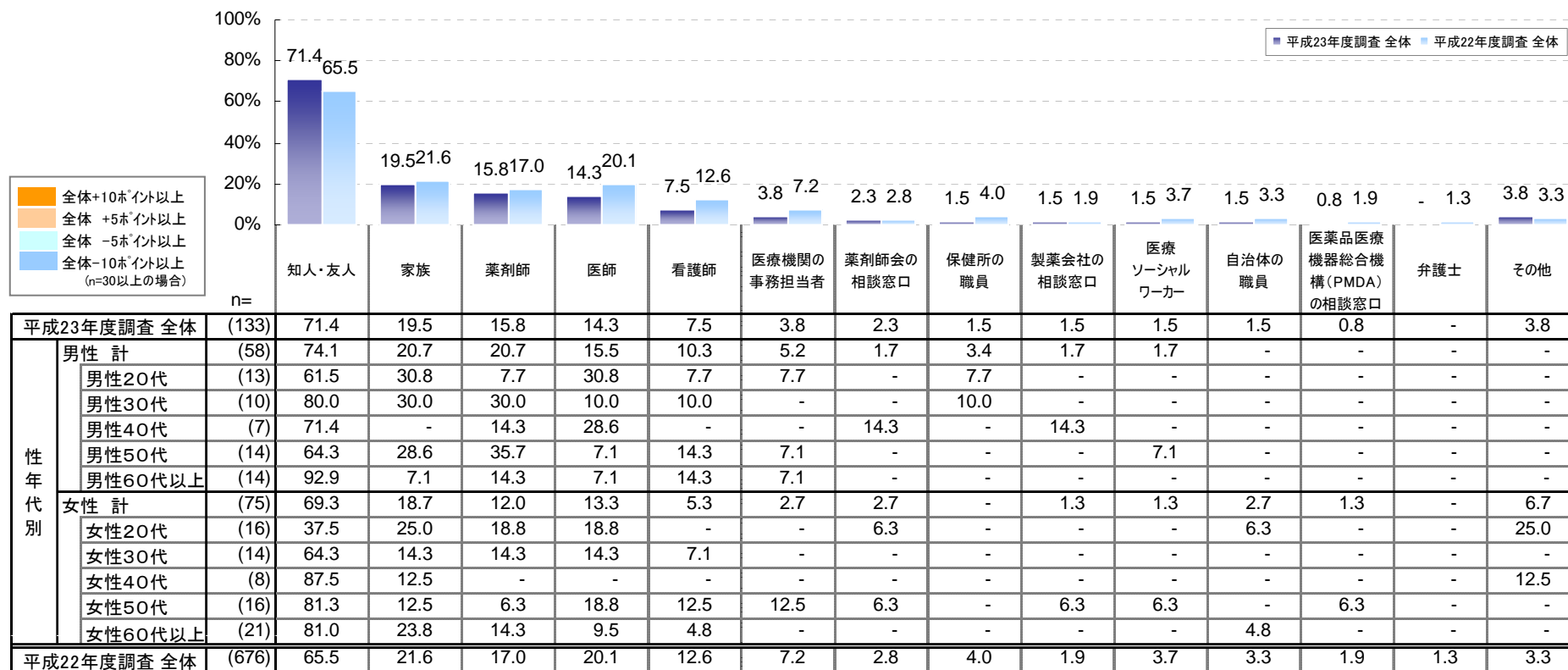
11 医薬品副作用被害救済制度 教えてもらった人

複数回答

平成23年度 Q10 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、誰から知りましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

平成22年度 Q10 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、誰から知りましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

*「人から聞いた/教えてもらった」回答者ベース



平成23年度調査全体値の降順にソート

- 「知人・友人」が大半を占めている。以下、「家族」、「薬剤師」、「医師」などが続く。
- 昨年度より「知人・友人」の割合が上回っている一方、「医師」が下回っている。

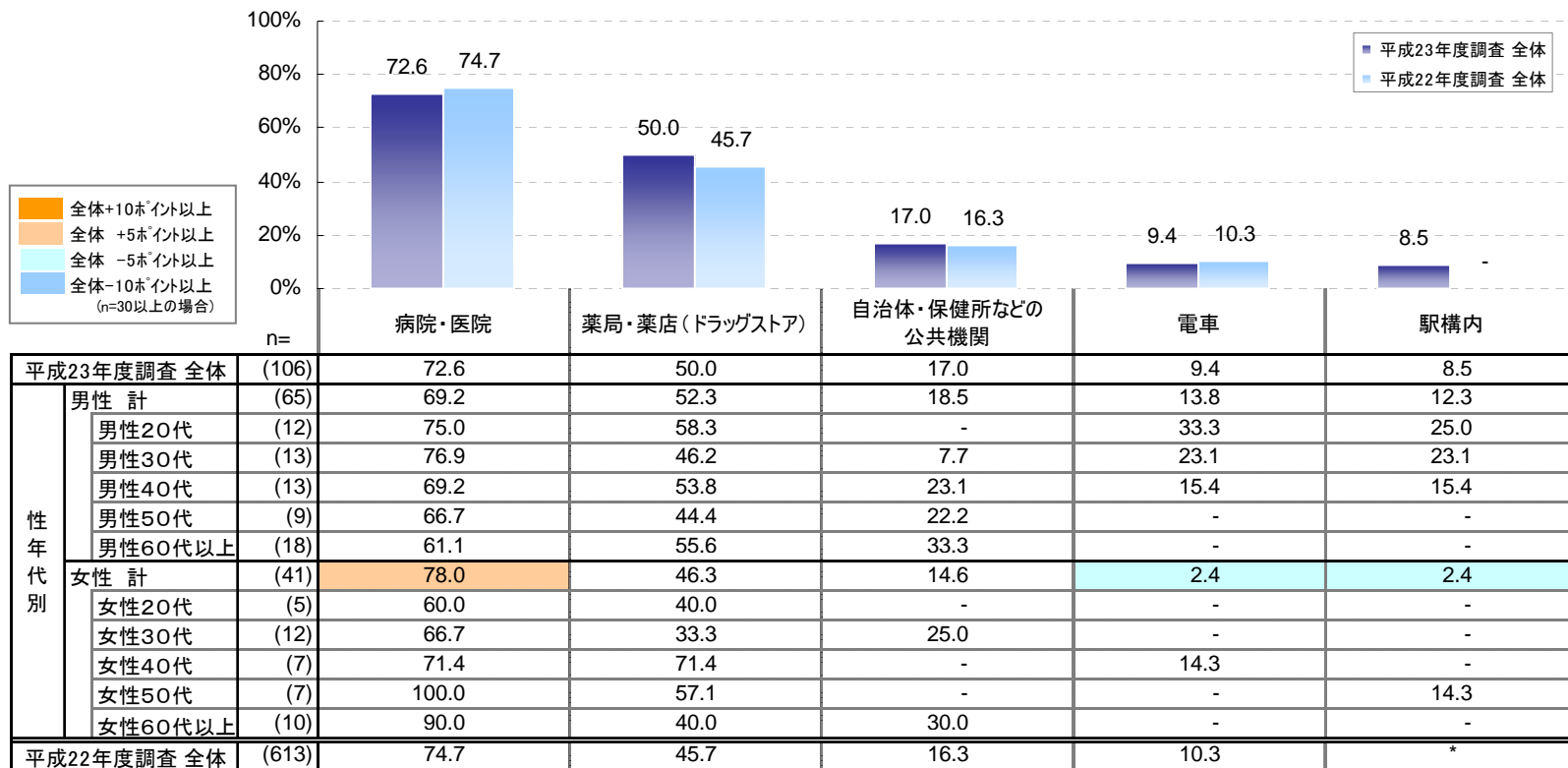
12 医薬品副作用被害救済制度 パンフレット・ポスター接触場所

複数回答

平成23年度 Q11 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」のパンフレット・リーフレット、ポスター・ステッカー・看板をどこで見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

平成22年度 Q11 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」のパンフレット、ポスター・ステッカーをどこで見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

* パンフレット・ポスターによる
認知者ベース



*:平成22年度非聴取項目 平成23年度調査全体値の降順にソート

- 主な接触場所は、「病院・医院」、「薬局・薬店」となっている。
- 昨年度と比べて「薬局・薬店(ドラッグストア)」がやや上回っているが、全体的にあまり変わらない。

13 広告の認知率

単一回答

平成23年度 Q12 画像(新聞広告、看板、ポスター)をご覧になってからお答えください。あなたは、この広告をひとつでも見たことがありますか。

平成22年度 Q12 以下の画像(新聞・交通広告、ポスター)をご覧になってからお答えください。あなたは、この広告をひとつでも見たことがありますか。



全体+10ポイント以上
全体 +5ポイント以上
全体 -5ポイント以上
全体 -10ポイント以上
(n=30以上の場合)

平成23年度調査

■ 見たことがある ■ 見たような気がする ■ 見たことはない

		n=	0%	20%	40%	60%	80%	100%	見た計
全体		(3,090)	1.8	12.1				86.1	13.9
性年代別	男性計	(1,545)	2.8	12.9				84.3	15.7
	男性20代	(309)	3.2	14.2				82.5	17.5
	男性30代	(309)	2.6	10.0				87.4	12.6
	男性40代	(309)	1.9	13.3				84.8	15.2
	男性50代	(309)	4.2	10.0				85.8	14.2
	男性60代以上	(309)	1.9	16.8				81.2	18.8
	女性計	(1,545)	0.8	11.3				87.9	12.1
	女性20代	(309)	0.3	13.6				86.1	13.9
	女性30代	(309)	0.6	6.5				92.9	7.1
	女性40代	(309)	0.3	9.4				90.3	9.7
女性50代	(309)	1.0	13.3				85.8	14.2	
女性60代以上	(309)	1.6	13.9				84.5	15.5	
受診者別	全体								
	受診者	(2,618)	2.0	13.0				85.0	15.0
	非受診者	(472)	0.6	7.2				92.2	7.8
	認知者								
受診者	(672)	7.1	36.2				56.7	43.3	
非受診者	(81)	1.2	27.2				71.6	28.4	

平成22年度調査

■ 見たことがある ■ 見たような気がする ■ 見たことはない

		n=	0%	20%	40%	60%	80%	100%	見た計
全体		(21,000)	3.9	18.2				77.9	22.1
性年代別	男性計	(10,366)	4.4	21.4				74.2	25.8
	男性20代	(983)	6.1	18.3				75.6	24.4
	男性30代	(2,570)	4.0	17.5				78.5	21.5
	男性40代	(3,178)	3.5	19.9				76.6	23.4
	男性50代	(2,227)	4.5	22.9				72.6	27.4
	男性60代以上	(1,408)	5.8	31.3				62.9	37.1
	女性計	(10,634)	3.3	15.2				81.5	18.5
	女性20代	(1,904)	4.2	14.1				81.7	18.3
	女性30代	(3,984)	2.9	13.0				84.1	15.9
	女性40代	(2,859)	3.1	14.9				82.0	18.0
女性50代	(1,349)	3.3	20.3				76.4	23.6	
女性60代以上	(538)	3.9	24.4				71.7	28.3	
受診者別	全体								
	受診者	(16,574)	4.4	19.9				75.7	24.3
	非受診者	(4,426)	1.8	12.1				86.1	13.9
	認知者								
受診者	(-)								
非受診者	(-)								

※前回レポートでは非掲載

- 広告の認知率(見たことがある+見たような気がする)は、1割強。昨年度を下回っている。
- 【性年代別】
- 『男性』の認知率が『女性』をやや上回る。高年齢層の認知率が高めの傾向。
- 【受診者別】
- 全体ベースでは、『受診者』が15%と『非受診者』の8%を上回る。認知者ベースでは『受診者』が43%、『非受診者』が28%。

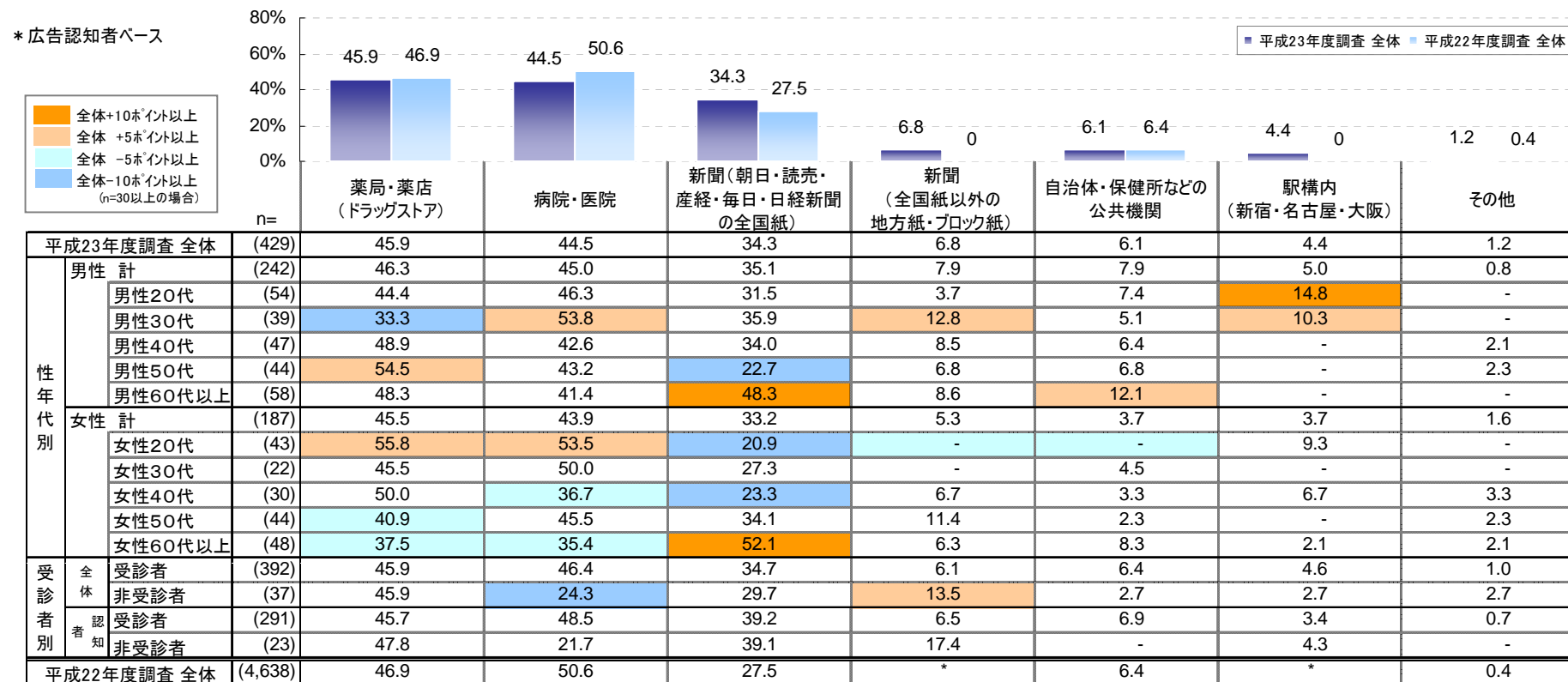
※受診者別(認知者ベース)の軸は、平成23年度調査と平成22年度調査で基準が異なるため参考値
 平成23年度調査:「医薬品副作用被害救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」のいずれか認知者ベース
 平成22年度調査:「医薬品副作用被害救済制度」「献血者健康被害救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」「石綿(アスベスト)健康被害救済制度」「予防接種健康被害救済制度」のいずれか認知者ベース

14 広告の接触媒体

複数回答

平成23年度 Q13 あなたは、どこでこの広告を見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

平成22年度 Q13 あなたは、どこでこの広告を見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。



※平成22年度調査では「新聞」は全国紙・地方紙を分けずに聴取 *：平成22年度非聴取項目 平成23年度調査全体値の降順にソート

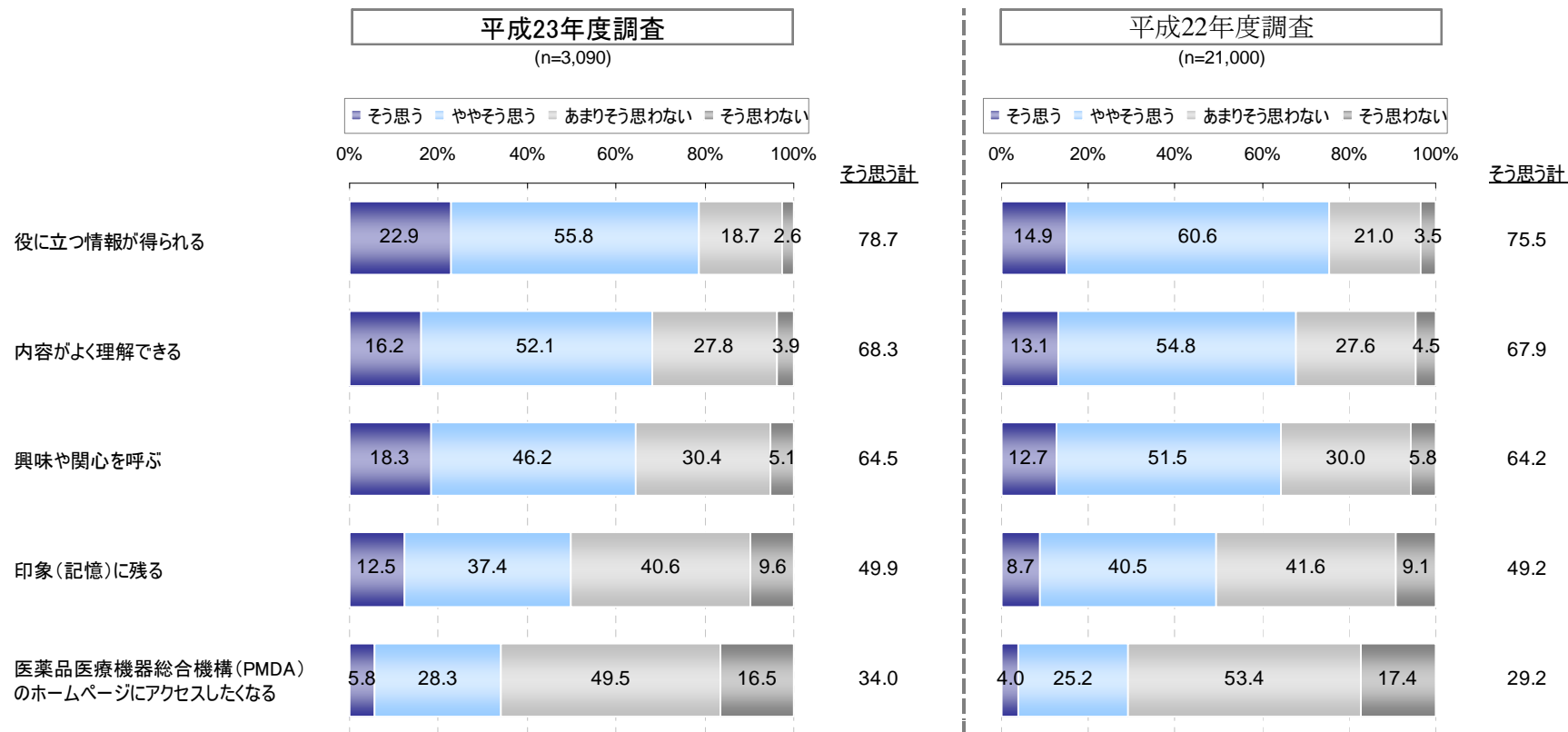
- 広告に接触した媒体は、「薬局・薬店」46%がトップ。以下、「病院・医院」45%、「新聞(全国紙)」34%が続く。
- 昨年度に比べて「病院・医院」がやや低くなっている。
- 【性年代別】
- 『男性』若年層で「駅構内」が高め。
- 「新聞(全国紙)」は、男女『60代以上』で高く、接触媒体のトップとなっている。
- 【受診者別】
- 全体ベースでは、『非受診者』の「病院・医院」(24%)が全体より低く、「新聞(全国紙以外の地方紙・ブロック紙)」(14%)がやや高め。

15 広告の評価

単一回答

平成23年度 Q14 画像(新聞広告、看板、ポスター)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

平成22年度 Q14 Q12でご覧になった「新聞・交通広告、ポスター」についての感想をおうかがいします。
以下の項目について、それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。



- 最も評価(そう思う+ややそう思う)が高かった項目は、『役に立つ情報が得られる』79%。以下、『内容がよく理解できる』68%、『興味や関心と呼ぶ』65%が続く。
- 昨年度に比べると、「そう思う」が全体的に上回っている。

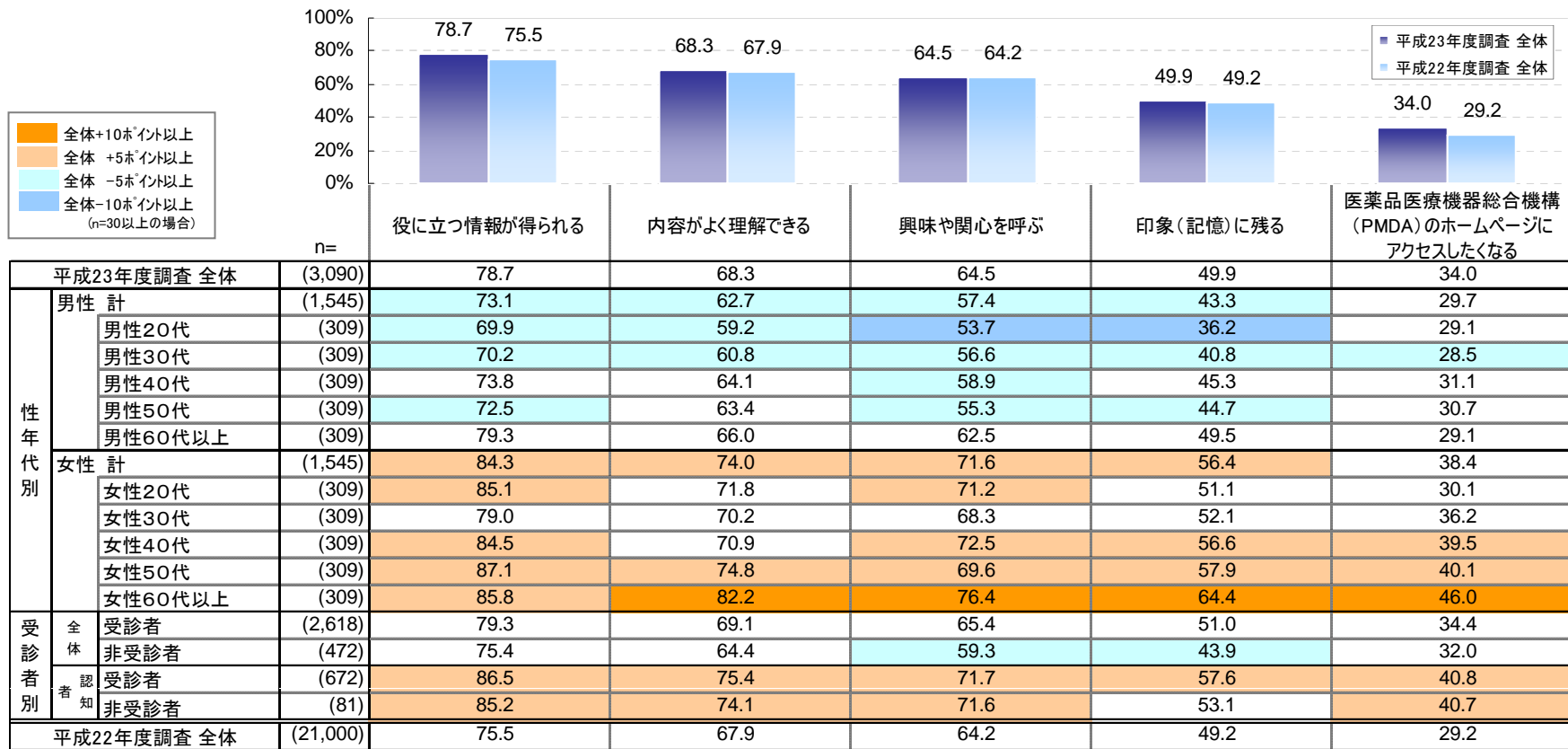
15 広告の評価

単一回答

平成23年度 Q14 画像(新聞広告、看板、ポスター)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

平成22年度 Q14 Q12でご覧になった「新聞・交通広告、ポスター」についての感想をおうかがいします。
以下の項目について、それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

【「そう思う計(そう思う+ややそう思う)」の割合】



【性年代別】

- 『女性』の評価が高く、特に『女性60代』が高い傾向。

【受診者別】

- 全体ベースでは『非受診者』のそう思う計(「そう思う」+「ややそう思う」)のスコアが「興味や関心を呼ぶ」「印象(記憶)に残る」でやや低め。また、認知者ベースでは、『受診者』『非受診者』にかかわらず高めの傾向がみられる。

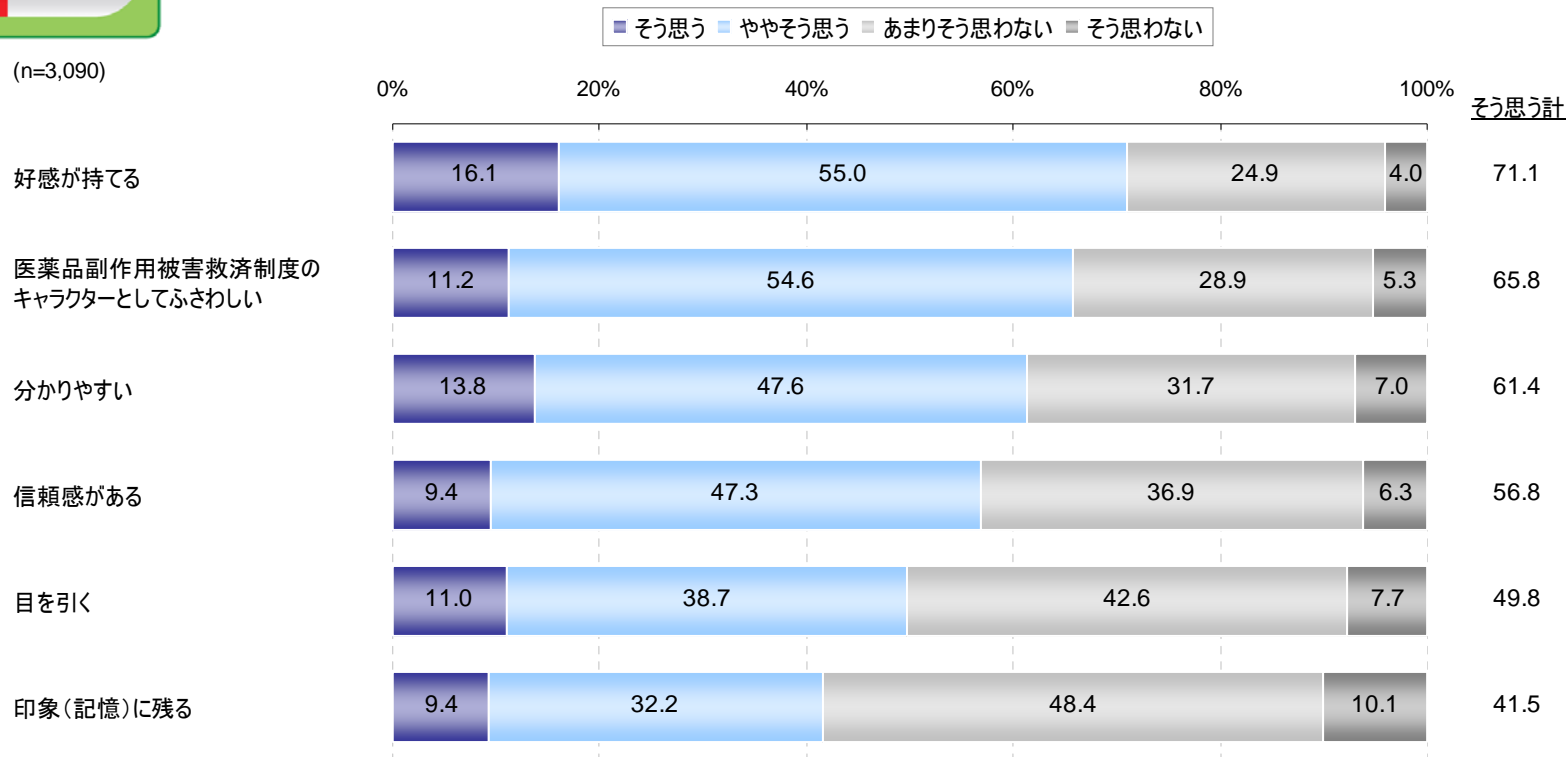
16 キャラクターの評価

単一回答

Q15 キャラクター(ドクトルQ)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまるとされるものをひとつずつお選びください。



(n=3,090)



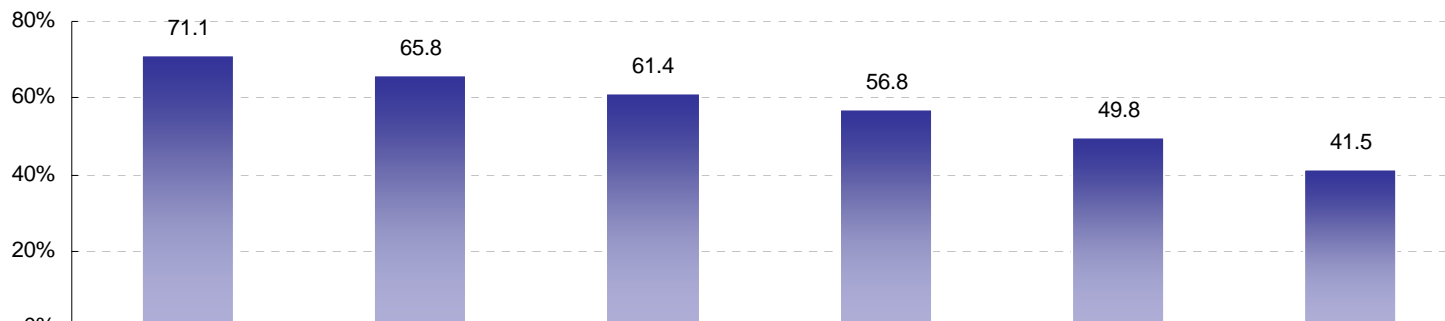
•キャラクターの評価(そう思う+ややそう思う)で最も高かった項目は、『好感が持てる』71%。以下、『医薬品副作用被害救済制度のキャラクターとしてふさわしい』66%、『分かりやすい』61%が続く。

16 キャラクターの評価

単一回答

Q15 キャラクター(ドクトルQ)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつずつお選びください。

【「思う計(思う+やや思う)」の割合】



■ 全体+10ポイント以上
■ 全体 +5ポイント以上
■ 全体 -5ポイント以上
■ 全体-10ポイント以上
 (n=30以上の場合)

n=		好感が持てる	医薬品副作用被害救済制度のキャラクターとしてふさわしい	分かりやすい	信頼感がある	目を引く	印象(記憶)に残る	
平成23年度調査 全体	(3,090)	71.1	65.8	61.4	56.8	49.8	41.5	
性年代別	男性 計	(1,545)	62.7	56.2	53.2	47.7	44.0	35.8
	男性20代	(309)	57.3	60.2	52.4	49.5	39.2	31.7
	男性30代	(309)	58.9	58.3	53.4	48.5	36.2	27.8
	男性40代	(309)	68.0	55.0	50.2	46.3	44.7	35.0
	男性50代	(309)	62.1	50.5	52.8	45.3	43.0	36.2
	男性60代以上	(309)	67.3	57.0	57.3	48.9	57.0	48.2
	女性 計	(1,545)	79.4	75.4	69.5	65.9	55.5	47.2
	女性20代	(309)	78.0	80.9	70.6	68.6	46.6	36.2
	女性30代	(309)	77.7	75.4	65.7	62.8	46.3	39.2
	女性40代	(309)	82.8	77.7	68.6	63.4	57.6	46.9
女性50代	(309)	78.0	70.6	68.3	66.0	59.9	54.7	
女性60代以上	(309)	80.6	72.5	74.4	68.6	67.3	59.2	

【性年代別】

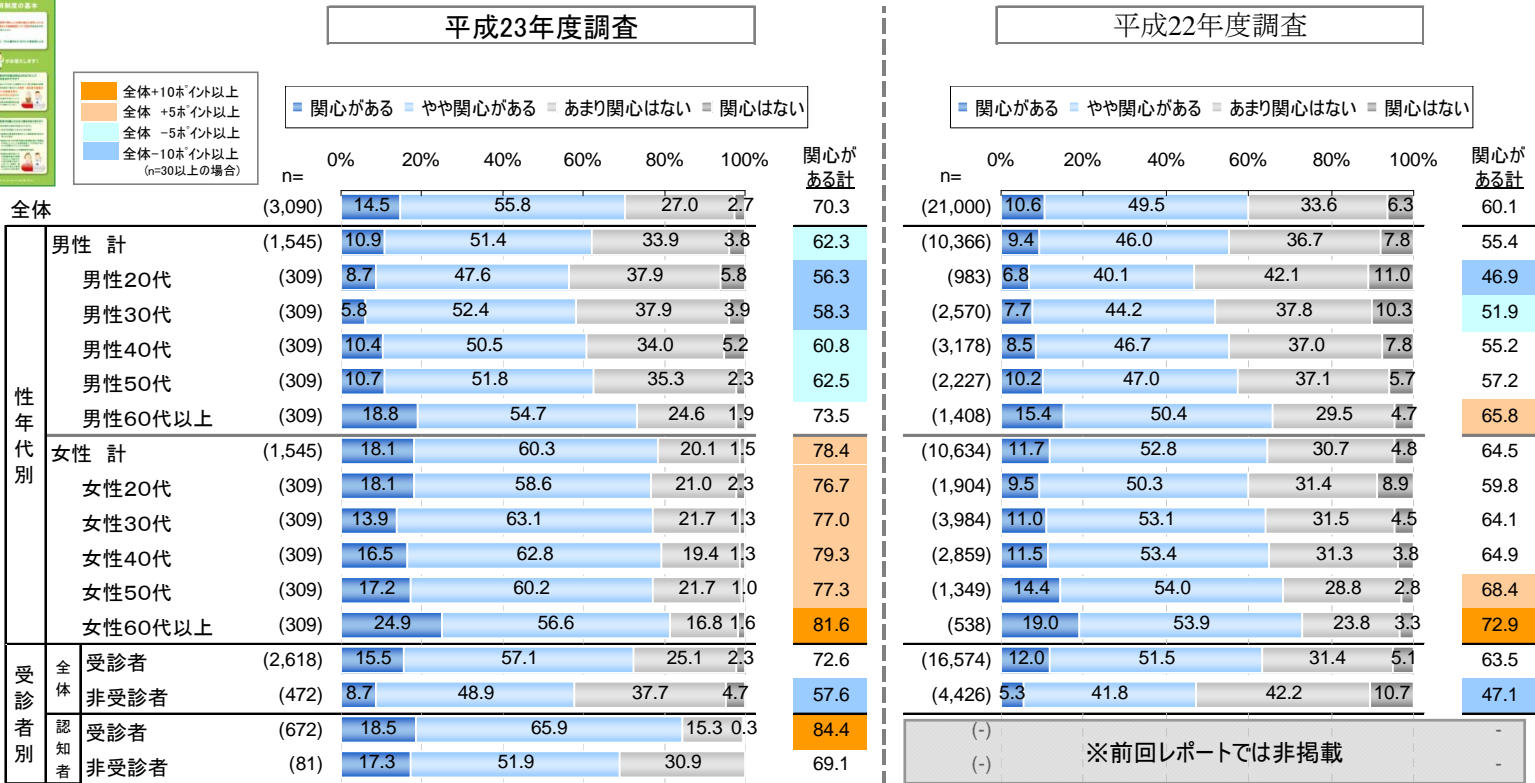
•キャラクターの評価においても『女性』の評価が高い。

17 医薬品副作用被害救済制度 関心动

単一回答

平成23年度 Q16 画像(リーフレット)をよくお読みになってからお答えください。あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、どの程度関心がありますか。

平成22年度 Q15 以下の「リーフレット」をよくお読みになってからお答えください。あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、どの程度関心がありますか。



- 医薬品副作用被害救済制度の関心动(関心がある+やや関心がある)は、7割。昨年度よりも上回っている。
- 【性年代別】
- 『女性』の方が関心动が高く、いずれの年代も8割前後となっている。『女性60代以上』では82%と非常に高い。
- 【受診者別】
- 全体ベースにおいて、関心动(関心がある+やや関心がある)は『受診者』で73%、『非受診者』で58%。認知者ベースでは『受診者』が84%と、『非受診者』の69%を大きく上回っている。

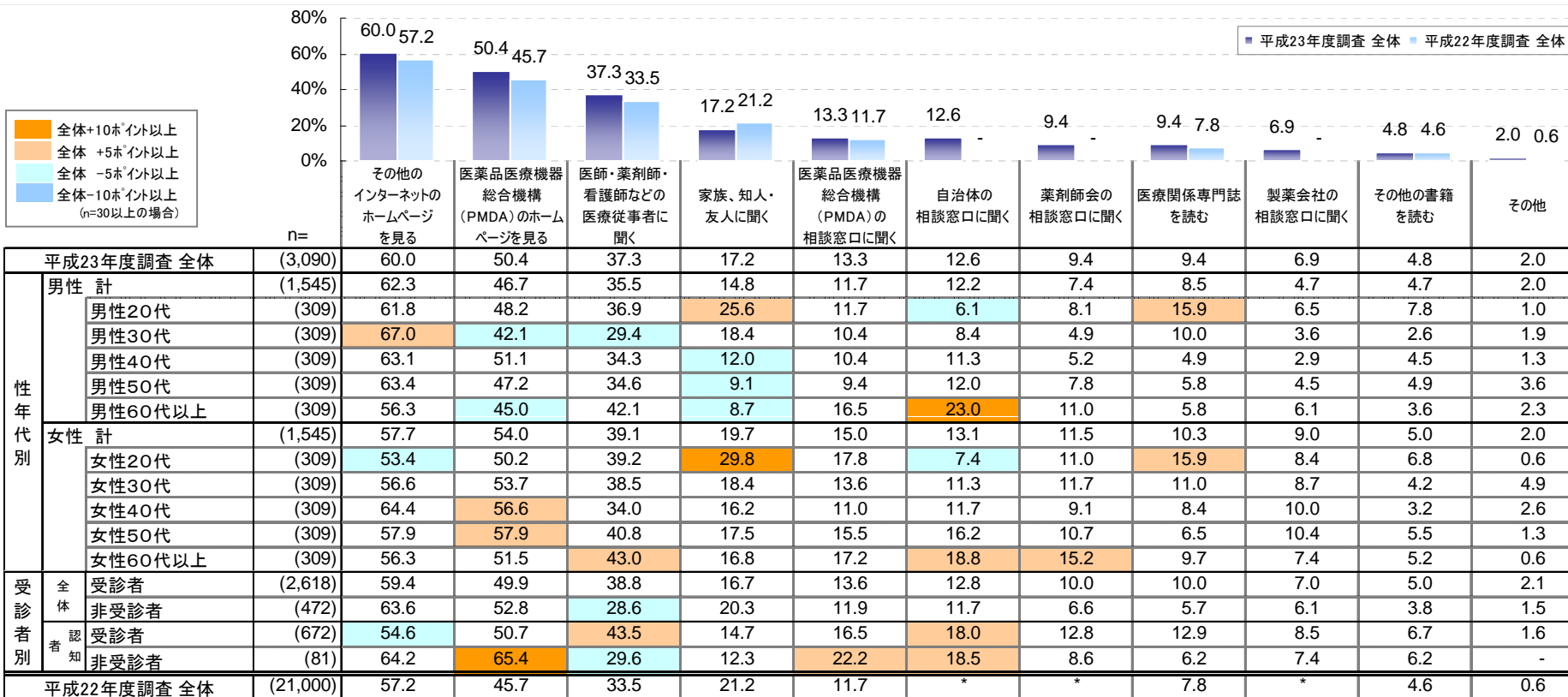
※受診者別(認知者ベース)の軸は、平成23年度調査と平成22年度調査で基準が異なるため参考値
 平成23年度調査:「医薬品副作用被害救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」のいずれか認知者ベース
 平成22年度調査:「医薬品副作用被害救済制度」「献血者健康被害救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」「石綿(アスベスト)健康被害救済制度」「予防接種健康被害救済制度」のいずれか認知者ベース

18 医薬品副作用被害救済制度 情報収集の方法

複数回答

平成23年度 Q17 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」や「薬の副作用」について情報を収集する場合、どのような方法で、またはどこから情報を入手できるとよいと思いますか。

平成22年度 Q16 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」や「薬の副作用」について情報を収集する場合、どのような方法で情報を入手しますか。



*:平成22年度非聴取項目 平成23年度調査全体値の降順にソート

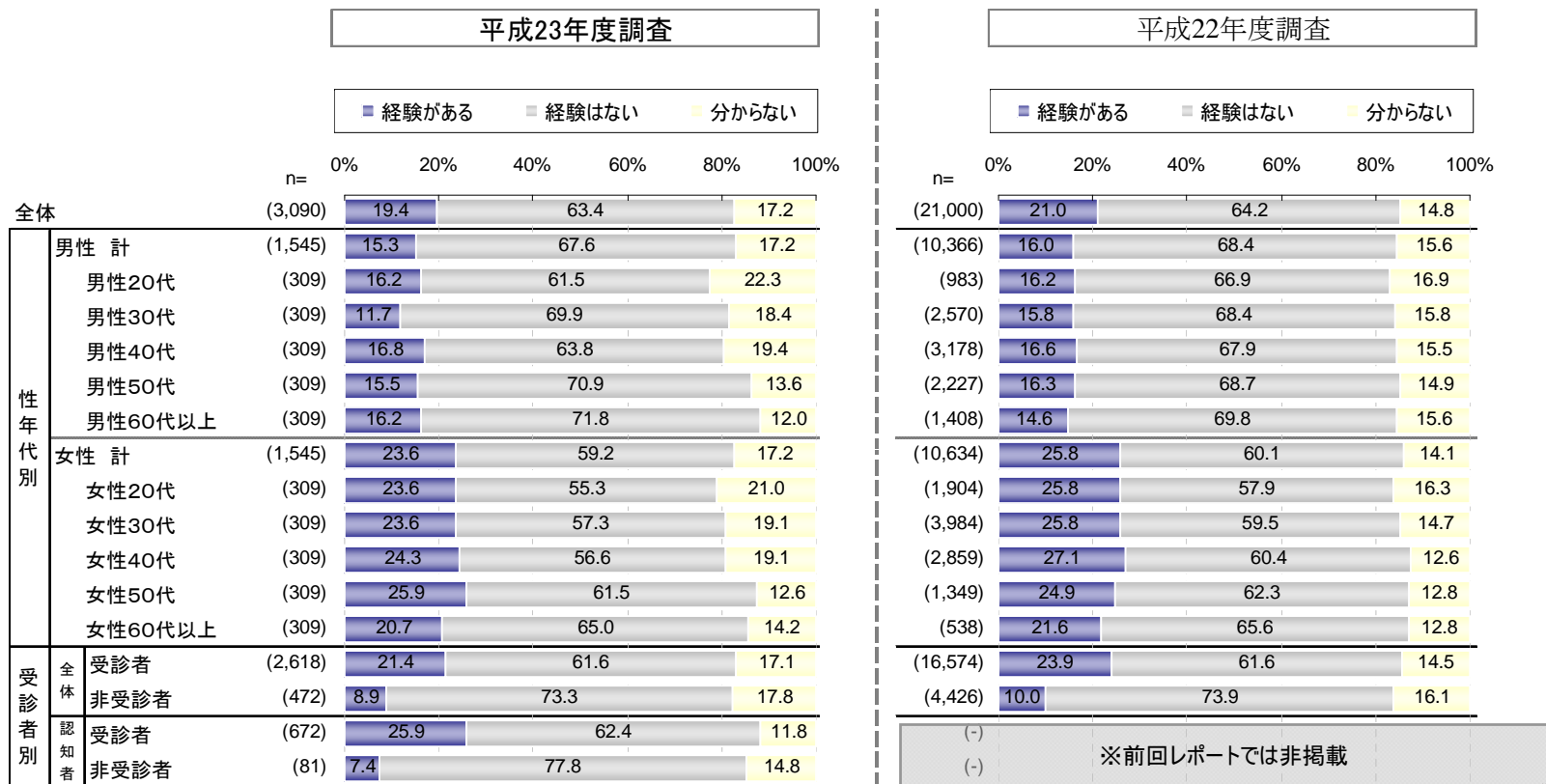
- 望ましい情報収集の方法として、「その他のインターネットのホームページ」60%、「医薬品医療機器総合機構のホームページ」50%、「医師・薬剤師・看護師などの医療従事者に聞く」37%が上位となっている。いずれの項目も昨年度と比べてやや上回っている。
- 【性年代別】
- 『20代』は、「家族、知人・友人に聞く」、『60代以上』では、「自治体の相談窓口聞く」が特徴的に高い。
- 【受診者別】
- 認知者ベースにおいて、『受診者』は「医師・薬剤師・看護師などの医療従事者に聞く」のスコア、『非受診者』は「医薬品医療機器総合機構(PMDA)のホームページを見る」のスコアが高くなっている。

19 副作用の経験

単一回答

平成23年度 Q18 あなたは、これまでに医薬品による副作用または副作用と思われる経験をしたことがありますか。

平成22年度 Q17 あなたは、これまでに医薬品による副作用または副作用と思われる経験をしたことがありますか。



• 医薬品による副作用の経験が「ある」との回答は2割弱。昨年とあまり差がみられない。

【性年代別】

• 『女性』の方が副作用の経験が高く、『女性50代』では26%と高め。

【受診者別】

• 全体ベース・認知者ベースいずれにおいても、『受診者』では「経験がある」の割合が2割以上を占める。

※受診者別(認知者ベース)の軸は、平成23年度調査と平成22年度調査で基準が異なるため参考値

平成23年度調査:「医薬品副作用被害救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」のいずれか認知者ベース

平成22年度調査:「医薬品副作用被害救済制度」「献血者健康被害救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」「石棉(アスベスト)健康被害救済制度」「予防接種健康被害救済制度」のいずれか認知者ベース

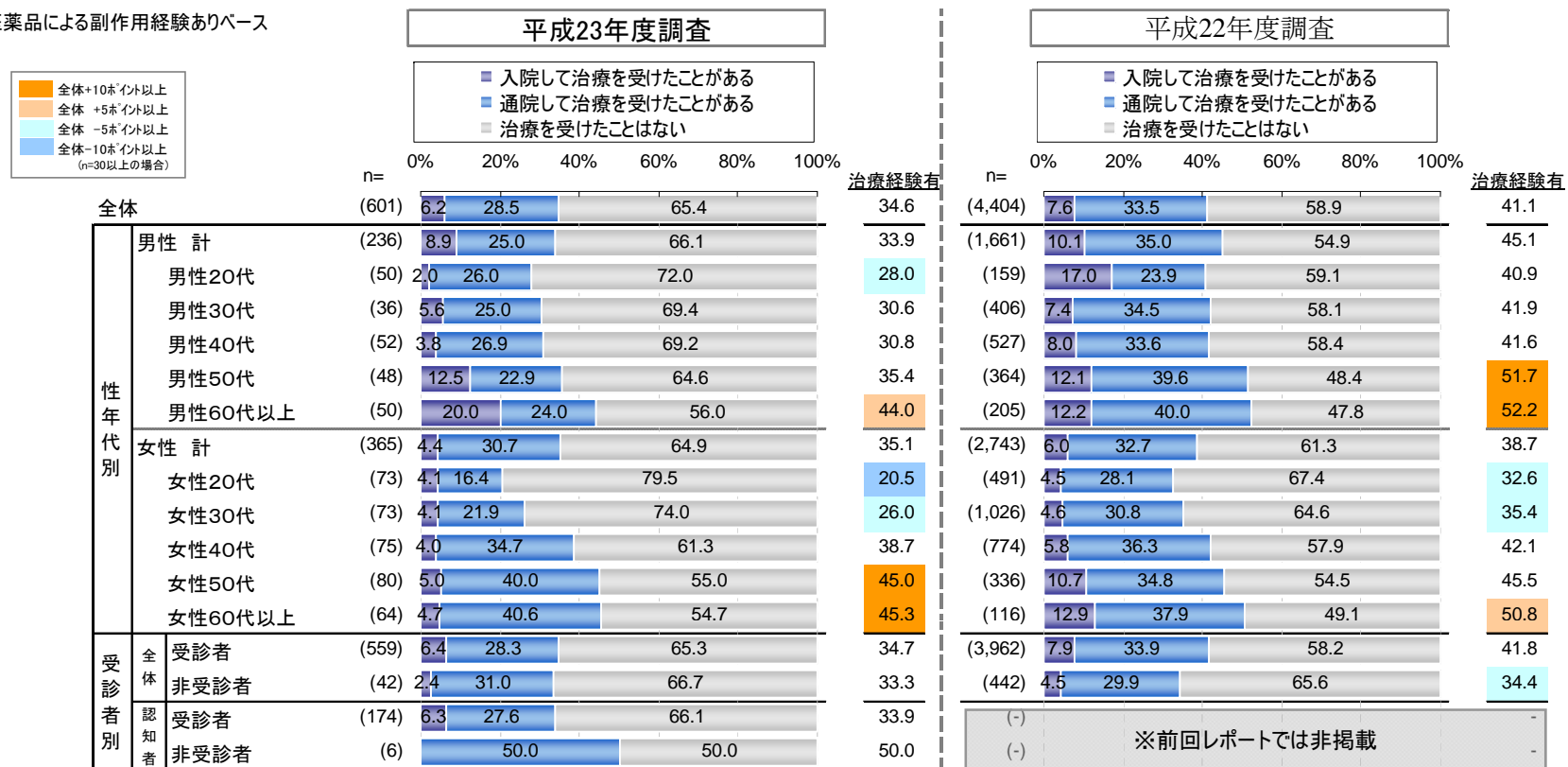
20 副作用で治療を受けた経験

単一回答

平成23年度 Q19 あなたが医薬品による副作用にあった際に、医療機関で治療を受けたことがありますか。

平成22年度 Q18 あなたが医薬品による副作用にあった際に、医療機関で治療を受けたことがありますか。

* 医薬品による副作用経験ありベース



- 医薬品による副作用で治療を受けた経験が「ある」との回答は全体の3割強で、昨年をやや下回る。その大半は「通院治療」となっている。
【性年代別】
- 男女とも高年齢層が治療経験のピークとなっている。一方、『20代』の経験は男女とも最も低くなっている。
- 【受診者別】
- 全体ベースにおいて、『受診者』は「入院して治療を受けたことがある」が6%と『非受診者』をやや上回る。

※受診者別(認知者ベース)の軸は、平成23年度調査と平成22年度調査で基準が異なるため参考値
 平成23年度調査:「医薬品副作用被害救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」のいずれか認知者ベース
 平成22年度調査:「医薬品副作用被害救済制度」「献血者健康被害救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」「石棉(アスベスト)健康被害救済制度」「予防接種健康被害救済制度」のいずれか認知者ベース

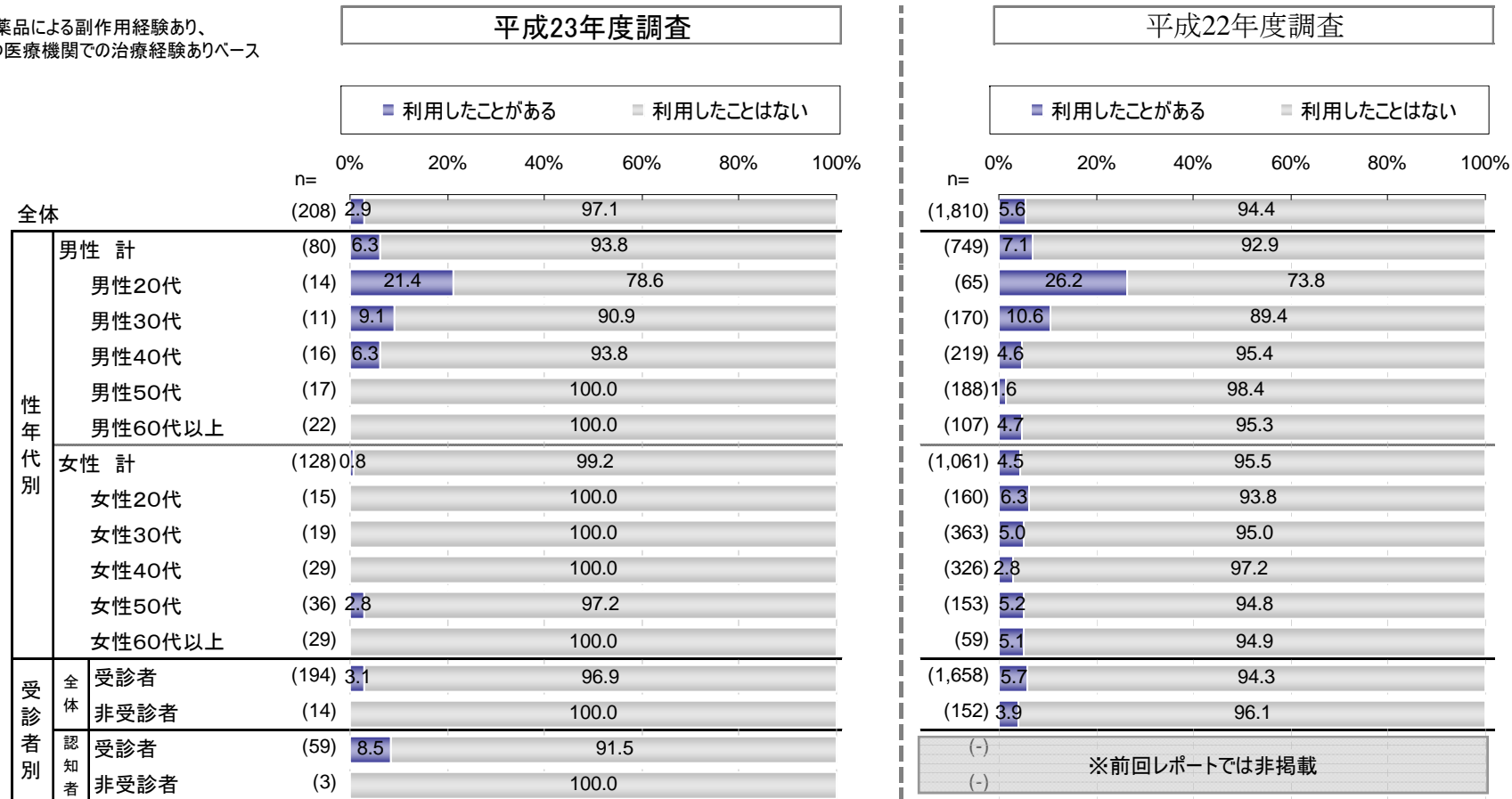
21 医薬品副作用被害救済制度を利用した経験

単一回答

平成23年度 Q20 あなたは医薬品の副作用の治療を受けた際に、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したことがありますか。

平成22年度 Q19 あなたは医薬品の副作用の治療を受けた際に、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したことがありますか。

* 医薬品による副作用経験あり、かつ医療機関での治療経験ありベース



•健康被害救済制度の利用経験は3%。昨年度をやや下回っている。
【性年代別】
 •『男性』の方が利用経験がやや高め。

※受診者別(認知者ベース)の軸は、平成23年度調査と平成22年度調査で基準が異なるため参考値
 平成23年度調査:「医薬品副作用被害救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」のいずれか認知者ベース
 平成22年度調査:「医薬品副作用被害救済制度」「献血者健康被害救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」「石綿(アスベスト)健康被害救済制度」「予防接種健康被害救済制度」のいずれか認知者ベース

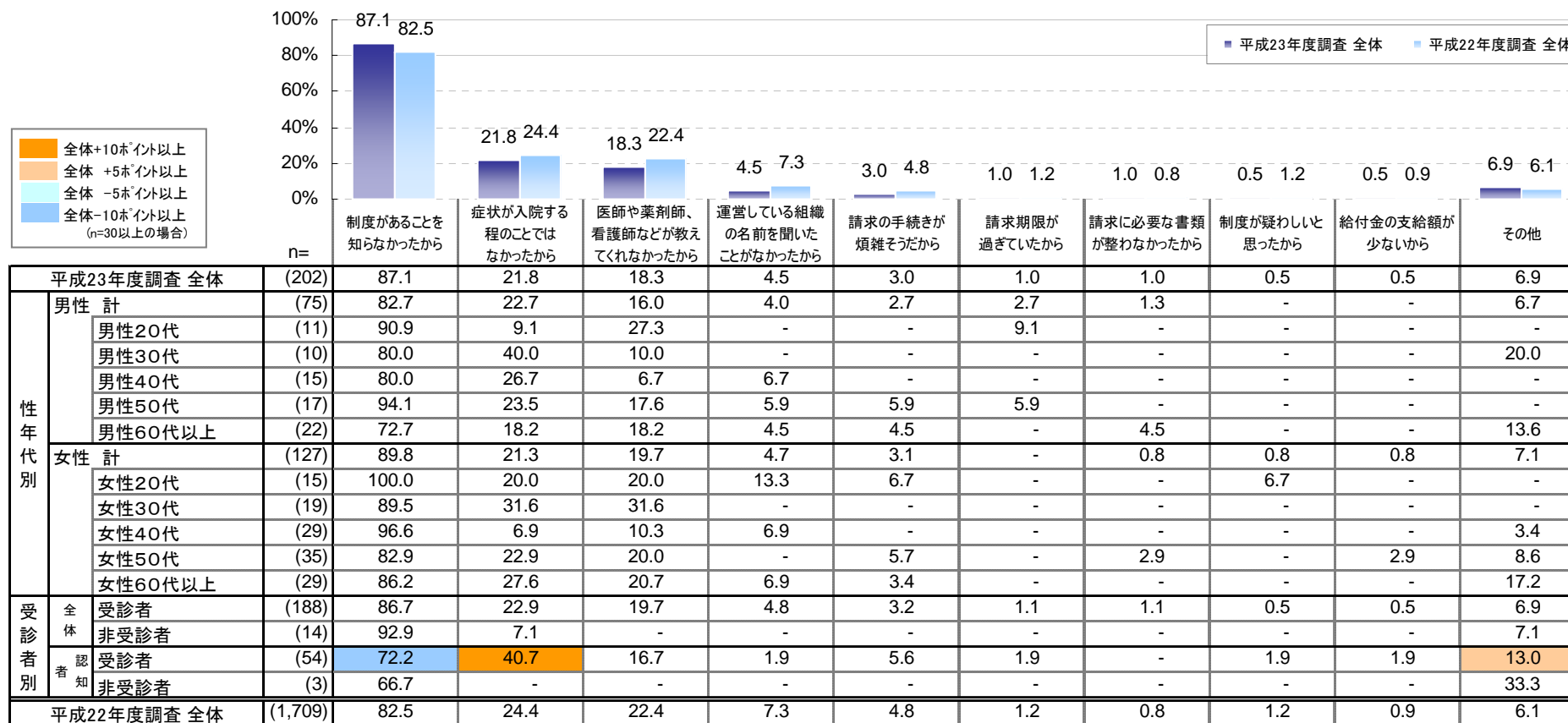
22 医薬品副作用被害救済制度を利用しなかった理由

複数回答

平成23年度 Q21 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」を利用しなかった理由について、あてはまるものをすべてお選びください。

平成22年度 Q20 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」を利用しなかった理由について、あてはまるものをすべてお選びください。

* 医薬品副作用被害救済制度利用経験なしベース



平成23年度調査全体値の降順にソート

・利用しなかった理由は、「制度があることを知らなかったから」が9割弱と突出しており、昨年度に比べてやや上回っている。

【受診者別】

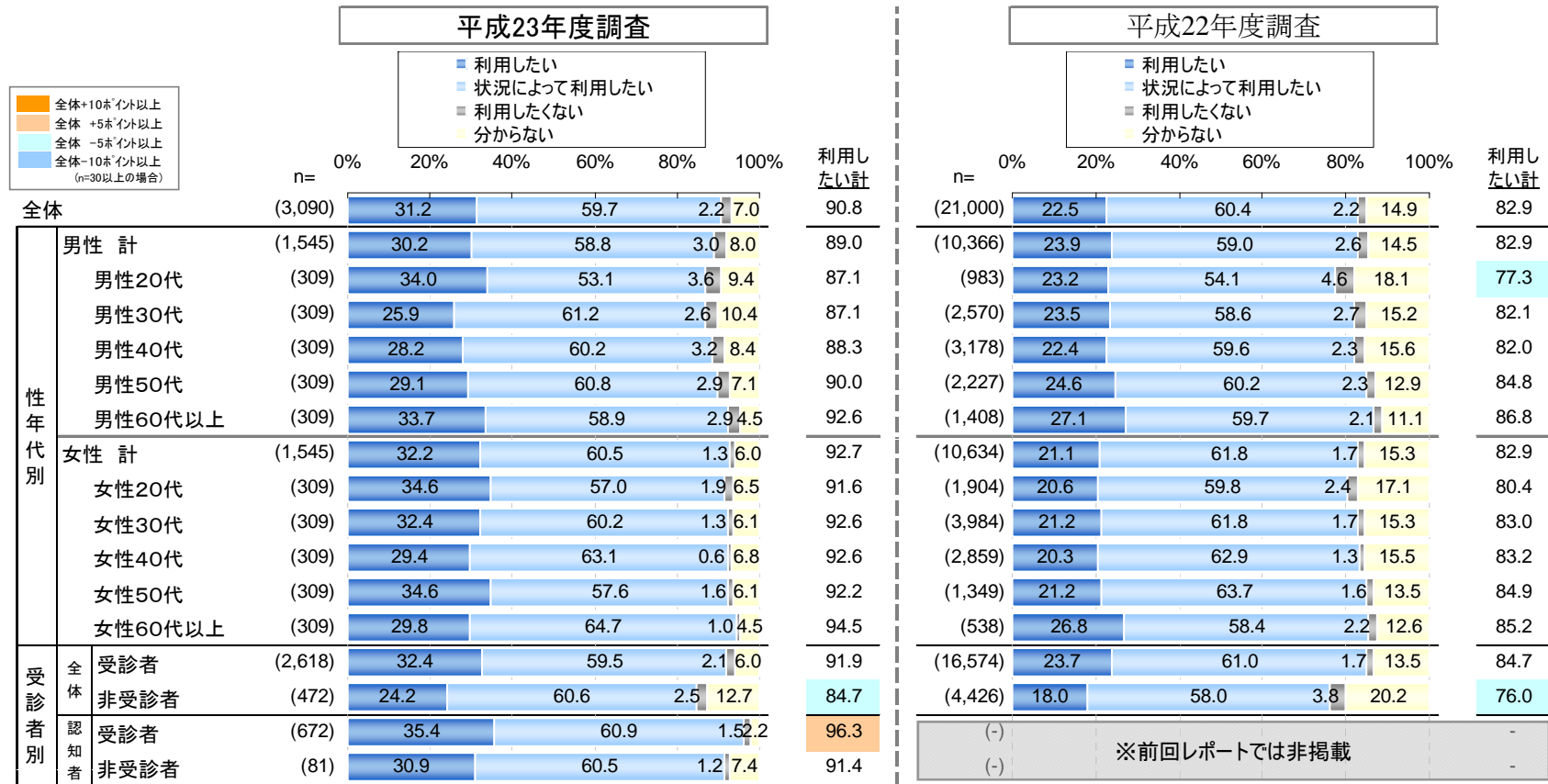
・認知者ベースの受診者では、「症状が入院する程のことではなかったから」が41%と全体に比べて高い。

23 医薬品副作用被害救済制度 今後の利用意向

単一回答

平成23年度 Q22 今後、あなたが制度の対象となるような医薬品の副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したいと思いますか。

平成22年度 Q21 今後、あなたが医薬品の副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したいと思いますか。



- 今後の利用意向(利用したい+状況によって利用したい)は、9割。昨年度をやや上回っている。
- 【性年代別】
- 『女性』の利用意向は、全ての年代で9割以上と高め。
- 【受診者別】
- 全体ベースでは、『受診者』の利用意向が92%であるのに対し、『非受診者』は85%。認知者ベースでは『受診者』は96%、『非受診者』は91%。

※受診者別(認知者ベース)の軸は、平成23年度調査と平成22年度調査で基準が異なるため参考値
 平成23年度調査:「医薬品副作用被害救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」のいずれか認知者ベース
 平成22年度調査:「医薬品副作用被害救済制度」「献血者健康被害救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」「石棉(アスベスト)健康被害救済制度」「予防接種健康被害救済制度」のいずれか認知者ベース

20 健康被害救済制度 利用意向の理由 <自由回答>

自由回答

Q23 今後、あなたが医薬品の副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」の利用について【Q22の選択内容】と回答されましたが、その理由を具体的に教えてください。

利用したい計(「利用したい」+「状況によって利用したい」)

(n=2,807)

0% 5% 10% 15% 20% 25%

利用したい/制度があるなら利用したい	20.3
重篤な副作用の場合/程度によって利用したい	11.9
医療費が軽減できるなら/金銭的補償をして欲しい	11.3
救済して欲しい/救済は当然	10.9
必要に応じて/その時になってみないとわからない	5.8
個人では対応できない/問い合わせたい/相談したい	5.4
安心である/安心感	4.8
軽度であれば利用しない/利用しない	2.9
副作用の判断が難しい/できない	2.6
制度を理解していないから	2.6
手続きが面倒そう	2.5
何が起こるか分からないから/今後あり得るから	2.5
便利な制度/必要な制度/信頼できる制度	2.2
薬は怖い/副作用は怖い	1.8
副作用を経験したことがない	1.7
泣き寝入りはしたくない	1.4
手続きが簡便であれば利用する/手続きが面倒なら使わない	1.4
障害が残った場合/生活に支障がでる場合	1.3
原因をはっきりさせたいから	1.2
副作用と因果関係がはっきりすれば	1.0
制度を理解してから利用する/利用方法が分からない	1.0
役に立ちそう	1.0
なんとなく	1.0
よく分からない/理解していないから	0.7
薬はあまり飲まないから	0.1
信用できない	0.0
その他	5.9
特になし	2.4

利用したくない

(n=67)

0% 5% 10% 15% 20% 25%

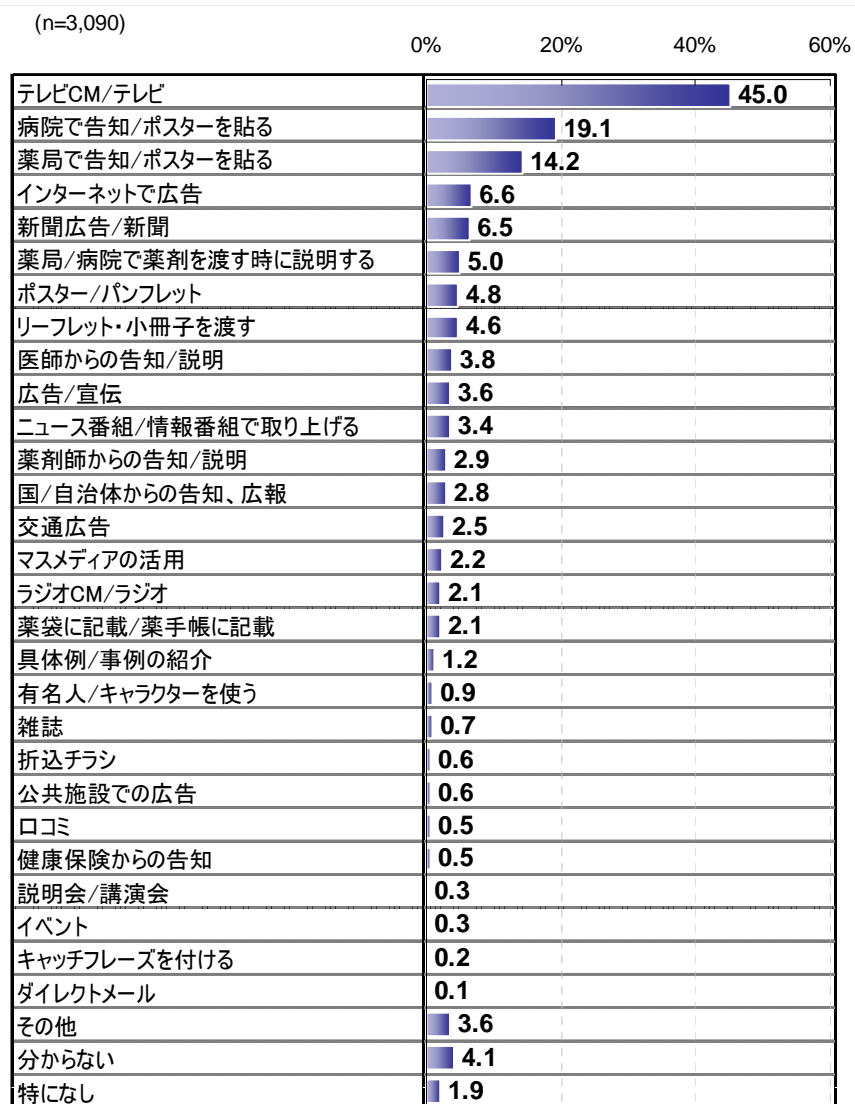
よく分からない/理解していないから	16.4
手続きが面倒そう	14.9
軽度であれば利用しない/利用しない	7.5
副作用を経験したことがない	6.0
薬はあまり飲まないから	6.0
制度を理解していないから	4.5
何が起こるか分からないから/今後あり得るから	3.0
薬は怖い/副作用は怖い	3.0
なんとなく	3.0
信用できない	3.0
利用したい/制度があるなら利用したい	1.5
医療費が軽減できるなら/金銭的補償をして欲しい	1.5
必要に応じて/その時になってみないとわからない	1.5
個人では対応できない/問い合わせたい/相談したい	1.5
その他	7.5
特になし	20.9

- ・利用したい計(「利用したい」+「状況によって利用したい」)の理由として、「利用したい/制度があるなら利用したい」(20%)、「重篤な副作用の場合/程度によって利用したい」(12%)、「医療費が軽減できるなら/金銭的補償をして欲しい」(11%)、「救済して欲しい/救済は当然」(11%)などの意見が多く挙げられている。
- ・利用したくない理由として、「よく分からない/理解していないから」(16%)、「手続きが面倒そう」(15%)などが挙げられている。

21 健康被害救済制度 有効な周知の方法 <自由回答>

自由回答

Q24 「医薬品副作用被害救済制度」を広く皆様に知っていただくためには、どのような方法が有効だと思いますか。



•周知の方法として、「テレビCM/テレビ」が4割強と突出している。以下、「病院で告知/ポスターを貼る」(19%)、「薬局で告知/ポスターを貼る」(14%)が上位となっている。

付録：調査票

くすりに関する調査

下記アンケートにご協力をお願いします。

当アンケートの回答者の皆様へお願い

マクロミルモニタの管理口はモニタ規約にて「調査」についての守秘義務の徹底をお願いします。

当アンケートの内容および当アンケートで知り得た情報については、決して第三者に口外しないよう(掲示板やホームページへの書き込みを含む)、ご協力をお願いします。

Q1 あなたは、過去1年以内に医療機関にかかりましたか。
【必須入力】

1 はい	2 いいえ
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q2 あなたは、過去1年以内に医療機関をどのように利用(入院・通院)しましたか。
【必須入力】

1. 入院した
 2. 入院していないが通院した
 3. 入院し、別途通院もした

Q3 あなたは、過去1年以内どのような規模の医療機関をもっとも多く利用(回数)しましたか。
【必須入力】

1. 病院(ベッド数20床以上)
 2. 診療所、クリニック、医院など

Q4 Q3で「病院」をもっとも多く利用したとお答えの方にお聞きします。
あなたが、過去1年以内に利用された病院はどこですか。
もっとも多く利用されたところをひとつお選びください。
【必須入力】

1. 国立病院
 2. 大学病院
 3. 都道府県立病院または市町村立病院
 4. 日本赤十字社病院(日本赤十字社医療センター、〇〇赤十字病院など)
 5. 済生会病院(済生会〇〇病院、〇〇済生病院など)
 6. 厚生連病院(厚生連〇〇病院、〇〇厚生病院など)
 7. その他(1～6以外の病院)

Q5 あなたは、過去1年以内に医薬品(薬)を使用しましたか。
【必須入力】

1. 医療機関で処方された医薬品を使用した
 2. 市販されている医薬品を使用した
 3. 医療機関で処方された医薬品、市販されている医薬品ともに使用した
 4. 使用していない

Q6 Q5で「医薬品(薬)」を使用した」と回答された方にお聞きします。
あなたは、その医薬品(薬)をどこで購入(入手)しましたか。
あてはまるものをすべてお選びください。
【必須入力】

1. 院内処方(医療機関の中にある薬局または調剤窓口)
 2. 院外処方(医療機関の外にある薬局・ドラッグストアの調剤窓口)
 3. 薬局(院外処方を除く)・薬店(ドラッグストア)
 4. コンビニエンスストア
 5. 通信販売
 6. 置き薬(配置薬)
 7. 勤務先・学校
 8. その他

Q7 あなたは、下記に挙げた健康被害救済制度をご存じですか。
以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。
【必須入力】

	1 知っている	2 名前を知ったことがある	3 知らない
1. 医薬品副作用被害救済制度	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 生物由来製品感染等被害救済制度	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q8 Q7で医薬品副作用被害救済制度を「知っている」「名前を聞いたことがある」と回答された方にお聞きます。
「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。

【必須入力】

	1 知っている	2 知らない	3 分からない
1. 医薬品の副作用による被害を受けられた方の迅速な救済を図ることを目的とした公的な制度である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 医薬品を、適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 入院が必要な程度の疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 給付の種類がいくつもの種類がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 給付には、種類ごとにそれぞれ請求期限がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q9 Q7で医薬品副作用被害救済制度を「知っている」「名前を聞いたことがある」と回答された方にお聞きます。
あなたは「医薬品副作用被害救済制度」をどのようにして(何から)知りましたか。
または、どのようにして(何から)名前を聞きましたか。
あてはまるものをすべてお選びください。

【必須入力】

- 1. テレビ放送
- 2. ラジオ放送
- 3. 新聞
- 4. 週刊誌・フリーマガジン
- 5. 医療関係専門誌
- 6. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)主催のシンポジウム
- 7. その他のシンポジウム
- 8. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)のホームページ
- 9. その他のホームページ
- 10. 人から聞いた/教えてもらった
- 11. ハンフレット・リーフレット
- 12. ポスター・ステッカー・看板
- 13. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)作成のDVD
- 14. 病院・医院の院内ビジョン
- 15. 医薬品の外箱・添付文書
- 16. その他

Q10 Q9で「医薬品副作用被害救済制度」について、「人から聞いた/教えてもらった」と回答された方にお聞きます。
あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、誰から知りましたか。
あてはまるものをすべてお選びください。

【必須入力】

- 1. 知人・友人
- 2. 家族
- 3. 医師
- 4. 薬剤師
- 5. 看護師
- 6. 医療機関の事務担当者
- 7. 医療ソーシャルワーカー
- 8. 自治体の職員
- 9. 保健所の職員
- 10. 弁護士
- 11. 薬剤師会の相談窓口
- 12. 製薬会社の相談窓口
- 13. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の相談窓口
- 14. その他

Q11 Q9で「医薬品副作用被害救済制度」について、「ハンフレット・リーフレット」「ポスター・ステッカー・看板」から知った、と回答された方にお聞きます。
あなたは「医薬品副作用被害救済制度」のハンフレット・リーフレット、ポスター・ステッカー・看板をどこで見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

【必須入力】

- 1. 電車
- 2. 駅構内
- 3. 薬局・薬店(ドラッグストア)
- 4. 病院・医院
- 5. 自治体・保健所などの公共機関
- 6. その他

▼ 以下のボタンをクリックすると別画面で画像表示されます。▼
必ずクリックして、別画面に表示される画像全体をよくご覧ください。



Q12 画像(新聞広告、看板、ポスター)をご覧になってからお答えください。
あなたは、この広告をひとつでも見たことがありますか。

【必須入力】

- 1. 見たことがある
- 2. 見たような気がする
- 3. 見たことはない

新聞広告



看板



ポスター



Q13 Q12で「見たことがある」「見たような気がする」と回答された方にお聞きします。
あなたは、どこでこの広告を見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

【必須入力】

- 1. 新聞(朝日・読売・産経・毎日・日経新聞の全国紙)
- 2. 新聞(全国紙以外の地方紙・ブロック紙)
- 3. 駅構内(新宿・名古屋・大阪)
- 4. 薬局・薬店(ドラッグストア)
- 5. 病院・医院
- 6. 自治体・保健所などの公共機関
- 7. その他

▼ 以下のボタンをクリックすると別画面で画像表示されます。▼
別画面に表示される画像全体をよくご覧ください。



Q14 画像(新聞広告、看板、ポスター)をご覧になった感想をお聞きます。
以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

【必須入力】

	1 少し面白い	2 やや面白い	3 とても面白い	4 すごく面白い
1. 役に立つ情報が得られる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 内容がよく理解できる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 興味や関心を呼ぶ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 印象(記憶)に残る	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)のホームページにアクセスしやすくなる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

▼ 以下の画像をご覧ください。 ▼



Q15 上記画像のキャラクター(ドクトルQ)をご覧になった感想をお聞きます。
以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつずつお選びください。
【必須入力】

	1 とてもいい	2 ややいい	3 普通	4 あまりいい
1. 目を引く	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 印象(記憶)に残る	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 好感が持てる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 分かりやすい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 信頼感がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 医薬品副作用被害救済制度のキャラクターとしてふさわしい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

▼ 以下のボタンをクリックすると別画面で画像表示されます。
必ずクリックして、別画面に表示される画像全体をよくご覧ください。

📄 リーフレットを表示

Q16 上記画像(リーフレット)をよくお読みになってからお答えください。
あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、どの程度関心がありますか。
【必須入力】

1 関心がある	2 やや関心がある	3 あまり関心はない	4 関心はない
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q17 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」や「薬の副作用」について情報を収集する場合、
どのような方法で、またはどこから情報を入手できるとよいと思いますか。
あてはまるものすべてをお選びください。
【必須入力】

- 1. 医療関係専門誌を読む
- 2. その他の書籍を読む
- 3. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)のホームページを見る
- 4. その他のインターネットのホームページを見る
- 5. 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の相談窓口聞く
- 6. 医師・薬剤師・看護師などの医療従事者に聞く
- 7. 製薬会社の相談窓口聞く
- 8. 自治体の相談窓口聞く
- 9. 薬剤師会の相談窓口聞く
- 10. 家族、知人、友人に聞く
- 11. その他

Q18 あなたは、これまでに医薬品による副作用または副作用と思われる経験をしたことがありますか。
【必須入力】

- 1. 経験がある
- 2. 経験はない
- 3. 分からない

- Q18** 「経験がある」と回答された方にお聞きます。
あなたが医薬品による副作用にあった際に、医療機関で治療を受けたことがありますか。
【必須入力】
1. 入院して治療を受けたことがある
 2. 通院して治療を受けたことがある
 3. 治療を受けたことはない

- Q19** Q18で「入院して治療を受けたことがある」「通院して治療を受けたことがある」と回答された方にお聞きます。
あなたは医薬品の副作用の治療を受けた際に、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したことがありますか。
【必須入力】

1 利用したことがある	2 利用したことはない
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- Q20** Q20で「利用したことはない」と回答された方にお聞きます。
あなたが「医薬品副作用被害救済制度」を利用しなかった理由について、あてはまるものをすべてお選びください。
【必須入力】
1. 制度があることを知らなかったから
 2. 制度が疑わしいと思ったから
 3. 運営している組織の名前を聞いたことがなかったから
 4. 医師や薬剤師、看護師などが教えてくれなかったから
 5. 症状が入院する程のことではなかったから
 6. 請求期限が過ぎていたから
 7. 請求の手続きが複雑そうだから
 8. 請求に必要な書類が整わなかったから
 9. 給付金の支給額が少ないから
 10. その他

- Q22** 下記の説明をお読みになった上で回答してください。
今後、あなたが制度の対象となるような医薬品の副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したいと思いますか。
【必須入力】

■以下の説明をご覧ください。

医薬品副作用被害救済制度は、
病院・診療所で処方された医薬品や薬局などで購入した医薬品を
適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による入院治療が必要な程度の疾病や障害などの
健康被害を受けた方に対して、救済給付を行なう公的な制度です。

1. 利用したい
 2. 状況によって利用したい
 3. 利用したくない
 4. 分からない

- Q23** 今後、あなたが医薬品の副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」の利用について【Q22の選択内容】と回答されましたが、その理由を具体的に教えてください。
【必須入力】

※500文字以内でご記入ください。

- Q24** 「医薬品副作用被害救済制度」を広く皆様にご存知いただくためには、どのような方法が有効だと思いますか。
【必須入力】

※500文字以内でご記入ください。

【参考】

-医薬品副作用被害救済制度

昭和55年5月1日以降に使用した医薬品(病院・診療所で処方されたもの他、薬局で購入したものも含みます。)を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により、入院治療を必要とする程度の疾病や障害などの健康被害が生じた場合に、医療費、医療手当、障害年金などの給付を行う制度です。

-生物由来製品感染等被害救済制度

平成16年4月1日以降に使用した生物由来製品(輸血用血液製剤、ブタ心臓弁など)を適正に使用したにもかかわらず、その製品を介して感染症にかかり、入院治療を必要とする程度の疾病や障害などの健康被害が生じた場合に、医療費、医療手当、障害年金などの給付を行う制度です。

救済給付の請求にあたっては、請求区分に応じた請求書、診断書、受診証明書、投薬証明書などの書類が必要となりますので、事前に必要書類を機構の「救済制度相談窓口」にお問い合わせください。ホームページにも救済制度の説明や請求書類などのダウンロードサイトを設けていますので、合わせてご覧ください。

なお、救済制度のリーフレットやQ&A等の広報資料を無償で配布しておりますので、フリーダイヤルまでご連絡いただければお送りします。

PMDA 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

【救済制度相談窓口】

フリーダイヤル:0120-149-931

受付時間:9時~17時(土日祝日、年末年始を除く)

ホームページ:<http://www.pmda.go.jp>

アンケートは以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。
回答もれがないか確認し、よろしければ「送信」ボタンをクリックしてください。

送信